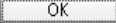
ブロードバンドルータ

CG-BARPROG
CG-BARPROG-X

取扱説明書

Y613-07429-02 Rev.D

本書の読み方

本書で使用している記号や表記には、次のような意味があります。

●記号について

警告	人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。
注意	操作中に気を付けていただきたい内容です。必ずお読みください。
メモ	補足事項や、参考となる情報を説明しています。

●表記について

本商品	CG-BARPROG / CG-BARPROG-X を示します。
「　」－「　」－「　」	「　」で囲まれた項目を順番に選択することを示します。
[　]	[　] で囲んである文字は、画面上のボタンを示します。 例：OK → [OK]
Windows	Microsoft® Windows® Operating system
Windows XP	Microsoft® Windows® XP Home Edition operating system および Microsoft® Windows® XP Professional operating system
Windows Vista	Microsoft® Windows Vista® Home Basic、 Microsoft® Windows Vista® Home Premium、 Microsoft® Windows Vista® Business および Microsoft® Windows Vista® Ultimate
Windows 2000	Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system
Windows Me	Microsoft® Windows® Millennium Edition operating system
Windows 98SE	Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating system

●イラスト、画面について

本文中に記載のイラストや画面は、実際と多少異なることがあります。

目　次

PART 1

準備をしよう

使用環境を確認しよう

チェック1

□ プロバイダとの契約、工事は完了していますか？

本商品を使ってインターネットに接続するには、フレッツ･ADSL、Bフレッツなどの回線を使ったインターネット接続サービスへの加入が必要です。また、プロバイダによる工事が完了するまでは、インターネットへの接続はできません。

チェック2

□ モデムやケーブルはそろっていますか？

回線と接続するには、回線の種類に応じたモデムなどが必要になります。また、回線への接続が正しくできているか、確認してください（確認方法については、ご契約のプロバイダにお問い合せください）。また、本商品とパソコンを接続するには、LANケーブルが必要になります。LANケーブルを購入する場合は、エンハンスド・カテゴリ５以上のLANケーブルをご購入ください（コレガ製のLANケーブルをお勧めします）。

チェック3

□ 設定に必要な情報は準備できていますか？

本商品を設定する際に、各サービス別に次の情報が必要です。プロバイダとの契約時に情報が提供されますので契約書類などで確認しておいてください。不明な場合はご契約のプロバイダにお問い合わせください。

■ PPPoE接続の場合（フレッツ･ADSL ／ B フレッツなど）
- ・ユーザ名
- ・パスワード
- ・サービス名（プロバイダから指定された場合のみ）
- ・DNS サーバの IP アドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■ DHCP を利用する場合（Yahoo! BB ／ CATV など）
- ・コンピュータ名（プロバイダから指定された場合のみ）
- ・DNS サーバの IP アドレス（プロバイダから指定された場合のみ）

■固定 IP アドレスで接続する場合（固定 IP サービス）
- ・WAN 側の IP アドレス
- ・サブネットマスク
- ・ゲートウェイアドレス
- ・DNS サーバの IP アドレス

上記の名称は、プロバイダによって異なる場合があります（例：ユーザ名→アカウント、ユーザID、ログイン ID など）。ご不明な点は、ご契約のプロバイダに確認してください。

パソコンの環境はそろっていますか？

■ LAN ポート（1000BASE-T ／ 100BASE-TX ／ 10BASE-T ポート）
パソコンにLAN ポートがない場合は、ご使用のパソコンに合わせ、次のいずれかの方法でLAN ポートを増設してください。増設方法については、パソコン、またはLAN アダプタの取扱説明書をご覧ください。

・ 拡張スロット（PCI スロットまたはPCI Express スロット）にLAN ボードを取り付ける
・ PC カードスロットにLAN カードを取り付ける
・ USB コネクタにLAN アダプタを取り付ける

■ OS
本商品は、Windows Vista ／ XP ／ 2000 ／ Me ／ 98SE など、TCP/IP をサポートするOS に対応しています。

■ Internet Explorer
本商品は、Internet Explorer（フレームに対応しているもの）で設定します。パソコンにMicrosoft Internet Explorer 5.5 以降がインストールされているか、確認してください。

本商品の設定は Windows 環境で設定してください。

本商品の機能

本商品には、次のような機能があります。

・ PPPoE 高機能ルーティング機能対応
・ WAN 側のポートが 1000/100/10Mbps 対応し、ブロードバンドネットワーク（ADSL/CATV/FTTH）に最適
・ LAN 側のポートも 1000/100/10Mbps に対応
・ NAT、NAPT による複数台のパソコンでのネットワークアプリケーション（オンラインゲーム、MSN Messenger 7、ICQ など）対応を実現
・ ステートフル・パケット・インスペクション技術による、ファイアウォール、ハッカー記録、ハッカー防止のためのE メール機能搭載
・ 付属の「簡単ルーター接続ソフト」で簡単に接続可能（Windows XP/2000/Me/98SE のみ）
・ Unnumbered/Unnumbered+Private IP をサポート
・ 9KB のJumbo Frame に対応

PART 2

ネットワークに接続しよう

パソコンのネットワークを設定しよう

本商品を使用してインターネットに接続できるように、パソコンのネットワーク環境を設定します。次の内容を確認してください（確認と設定の方法は、OSの種類など、ご使用になるパソコンの環境により異なります）。

・ネットワークアダプタの設定
・TCP/IP の設定

●Windows Vistaで利用するときは

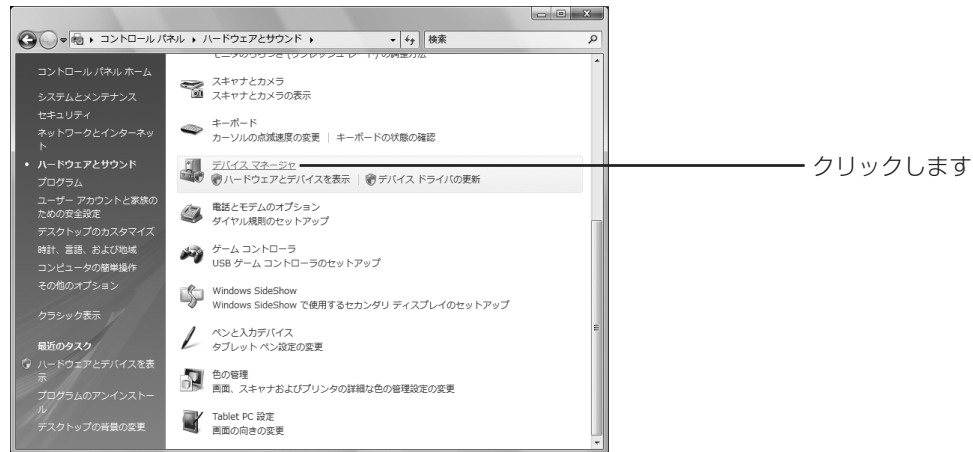
メモ　この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして確認してください。ユーザ権限については、OS の取扱説明書をご覧ください。

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作していることを「デバイスマネージャ」で確認します。

1　［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「ハードウェアとサウンド」をクリックします。

3　「デバイスマネージャ」をクリックします。

4　「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

5　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックして、接続しているネットワークアダプタを表示します。

6　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

メモ　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

■TCP/IP プロトコルを確認する

1 ［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

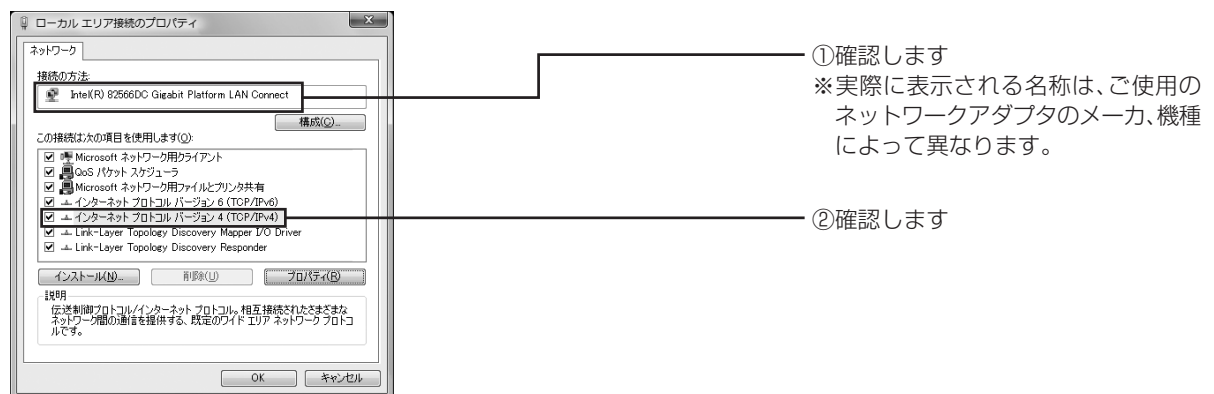
2 「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリックします。

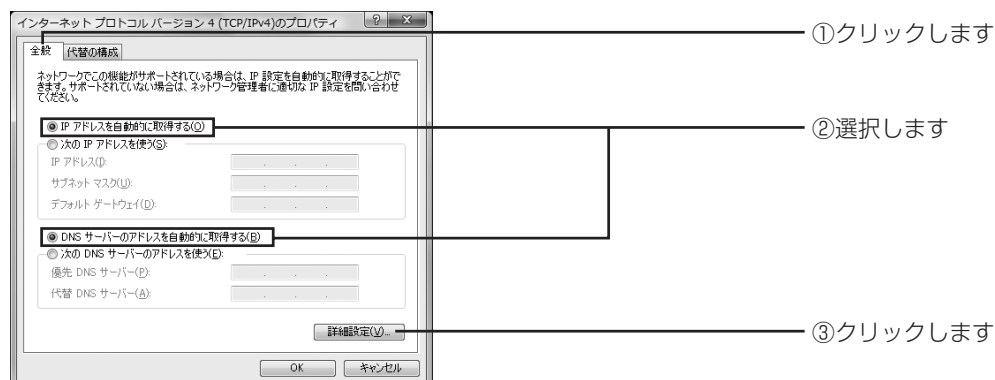
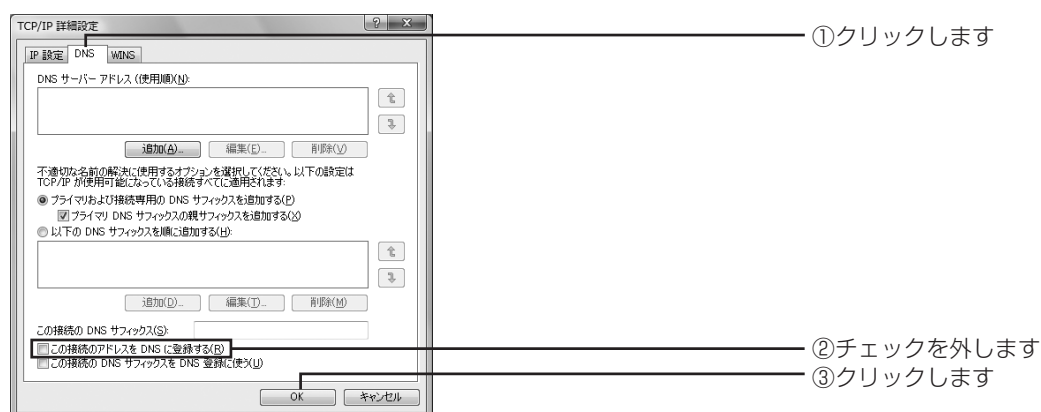
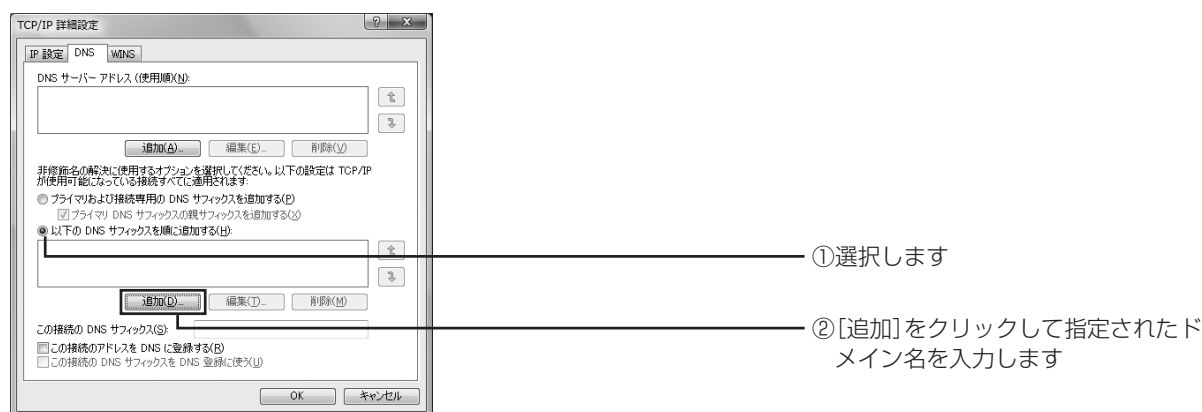
「ネットワークとインターネット」が表示されていない場合は、画面左側の「コントロールパネルホーム」をクリックしてください。

3 「ネットワーク」画面で「状態の表示」をクリックします。

4 「全般」タブで［プロパティ］をクリックします。

5 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されますので、［続行］をクリックします。

6 「インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IP 4）」にチェックが付いていることを確認します。

7 「インターネットプロトコルバージョン4（TCP/IP 4）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

8 「全般」タブで「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面で「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外して［OK］をクリックします。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合は、「以下の DNS サフィックスを順に追加する」をクリックし、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

10「インターネットプロトコルバージョン４（TCP/IPv4）のプロパティ」画面で［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で［OK］をクリックします。

12「ローカルエリア接続の状態」画面で［閉じる］をクリックします。

13 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。
次に「Internet Explorer の設定をしよう」（P.23）に進みます。

●Windows XPで利用するときは

メモ　この作業は「コンピュータの管理者」または同等の権限をもつユーザ名でログオンして確認してください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

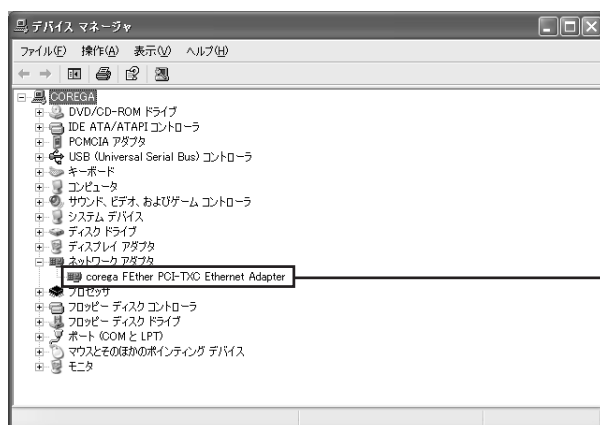
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　［スタート］－「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「ハードウェア」タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

メモ　「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

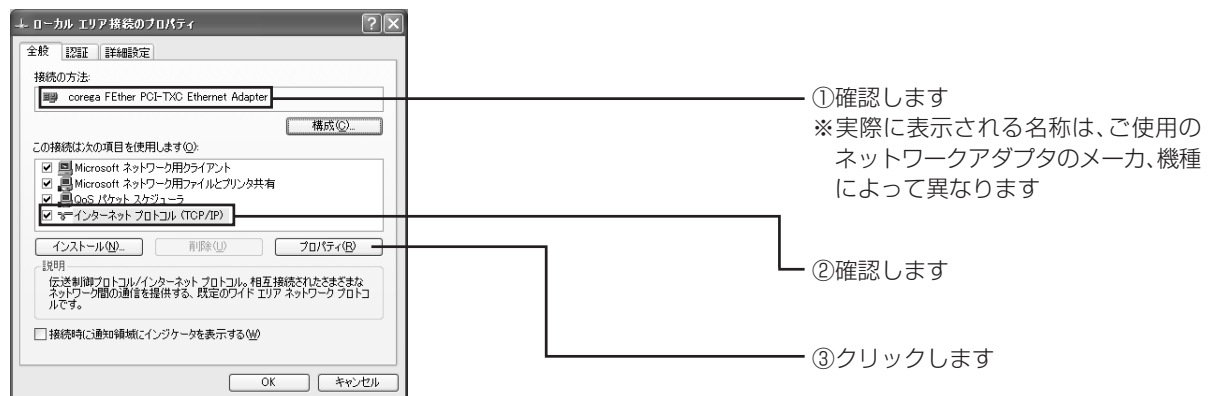
■TCP/IP プロトコルを確認する

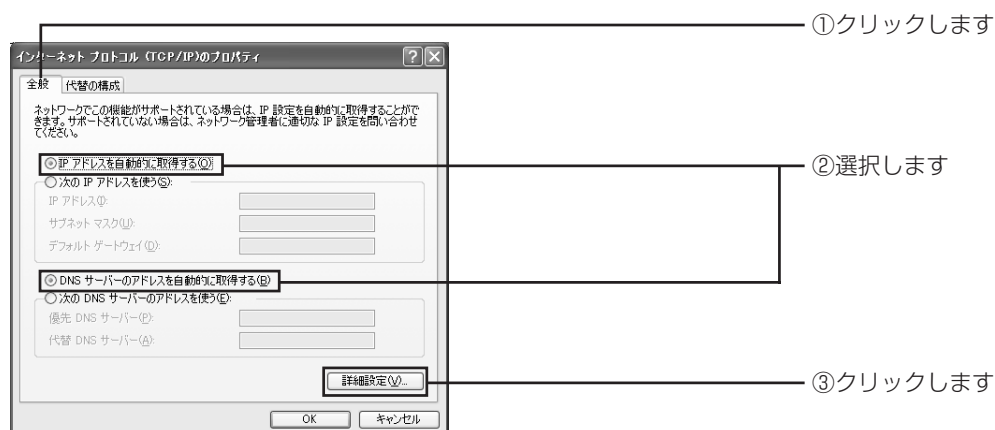
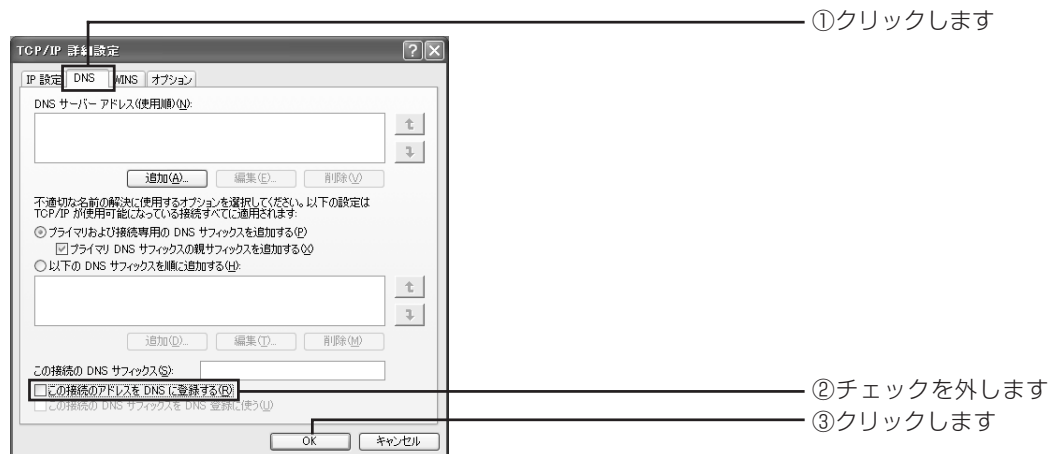
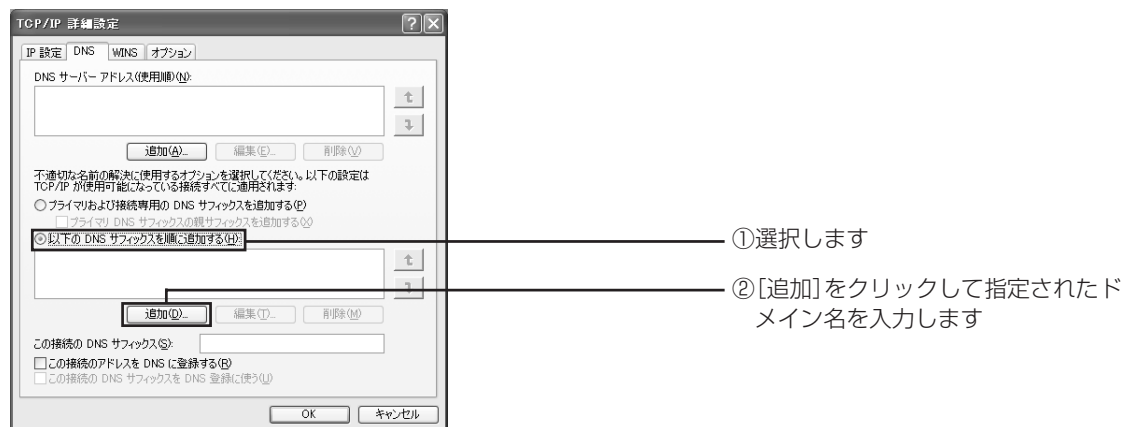
1　［スタート］－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2　「コントロールパネル」の「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。「ネットワークとインターネット接続」が表示されていない場合は、画面左側の「カテゴリの表示に切り替える」をクリックしてください。

3　「ネットワーク接続」をクリックします。

4　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューから「プロパティ」をクリックします。

5　「全般」タブの「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックが付いていることを確認します。

6　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

7　「全般」タブの「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

8 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外して［OK］をクリックします。

プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。

9 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

10「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

11「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［閉じる］をクリックします。

12 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。

以上で TCP/IP プロトコルの確認は完了です。
次に「Internet Explorer の設定をしよう」（P.23）に進みます。

●Windows 2000で利用するときは

この作業は、「Administrator」または同等の権限を持つユーザ名でログインして確認してください。ユーザ権限については、OSの取扱説明書をご覧ください。

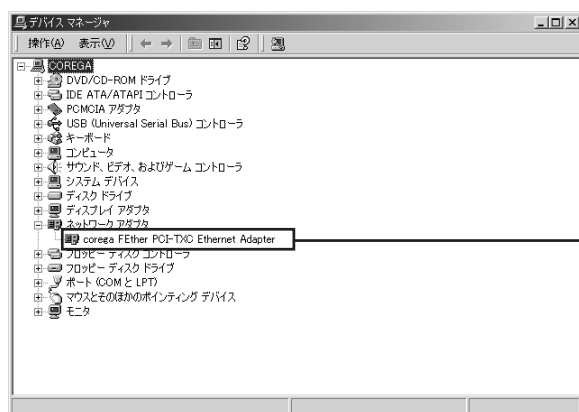
■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

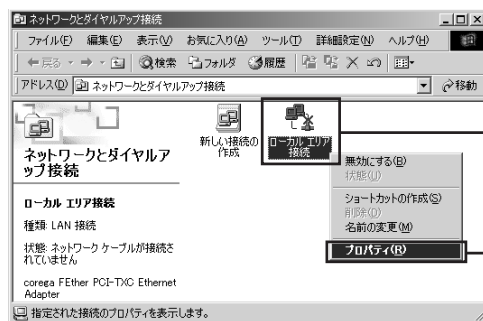
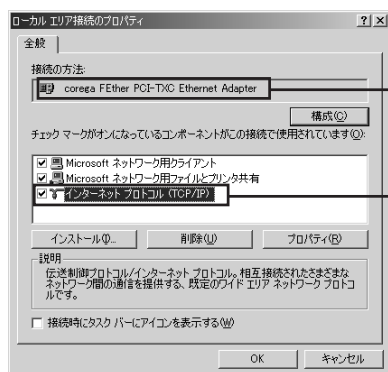
2　「ハードウェア」タブをクリックし、［デバイスマネージャ］をクリックします。

3　「デバイスマネージャ」画面の「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

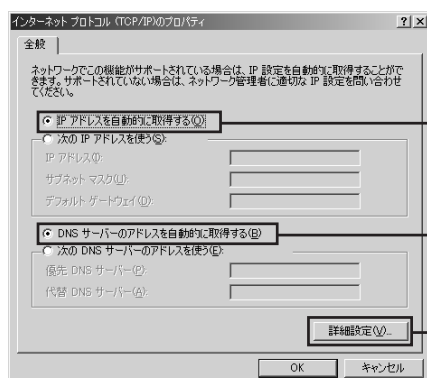
4　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。

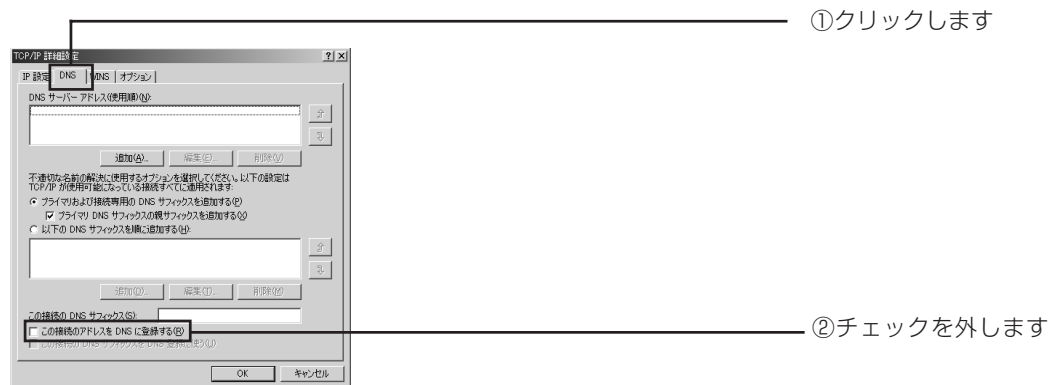
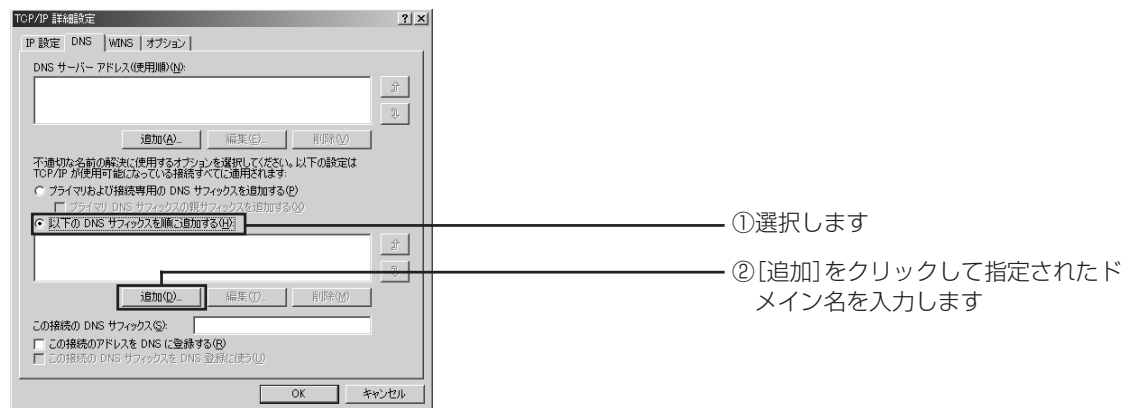
■ TCP/IP プロトコルを確認する

1　［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2　「ローカルエリア接続」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」にチェックが付いていることを確認します。

メモ　**「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が一覧にない場合は、「TCP/IP をインストールする」（P.13）をご覧ください。**

4　「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

5　「IPアドレスを自動的に取得する」と「DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する」を選択し、［詳細設定］をクリックします。

6 「TCP/IP 詳細設定」画面の「DNS」タブをクリックし、「この接続のアドレスを DNS に登録する」のチェックを外します。

メモ　**プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「以下のDNSサフィックスを順に追加する」を選択し、［追加］をクリックして指定されたドメイン名を入力してください。**

7 「TCP/IP 詳細設定」画面の［OK］をクリックします。

8 「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

9 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

10 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ　**メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

以上で TCP/IP プロトコルの確認は完了です。
次に「Internet Explorer の設定をしよう」（P.23）に進みます。

■ TCP/IP をインストールする

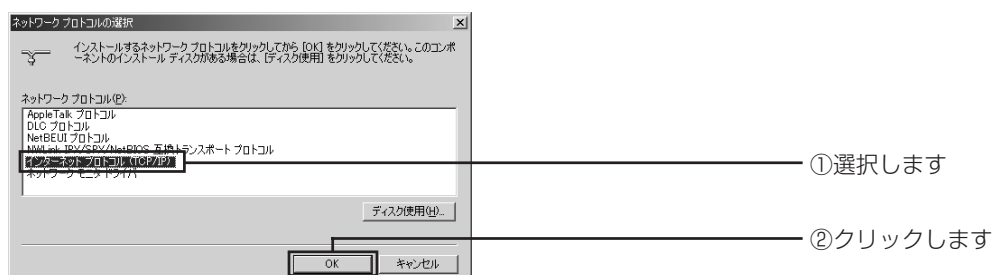
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールします。

1 ［スタート］－「設定」－「ネットワークとダイヤルアップ接続」の順にクリックします。

2 「ローカルエリア接続」アイコンを右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

3 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で［インストール］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面が表示されたら「インターネットプロトコル（TCP/IP）」を選択し、［OK］をクリックします。

6 「ローカルエリア接続のプロパティ」画面で「インターネットプロトコル（TCP/IP）」が有効になっていることを確認し、［OK］をクリックして画面を閉じます。

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.16）以降を設定します。

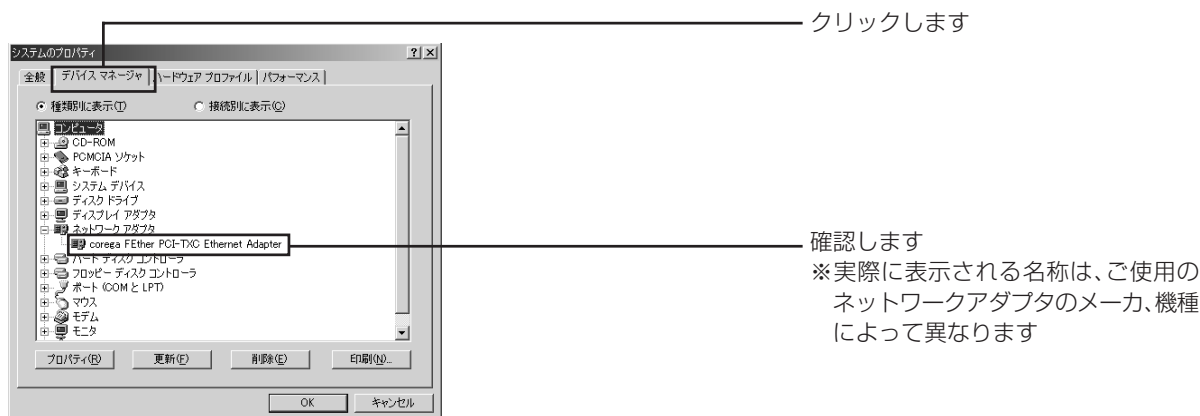
●Windows Me／98SEで利用するときは

■ネットワークアダプタの状態を確認する

パソコンに取り付けられたネットワークアダプタが正常に動作しているか、「デバイスマネージャ」で確認します。

1　デスクトップにある「マイコンピュータ」を右クリックし、メニューの「プロパティ」をクリックします。

2　「デバイスマネージャ」タブをクリックし、表示されたハードウェアデバイスの一覧から「ネットワークアダプタ」をダブルクリックします。

3　ネットワークアダプタの名称が表示されていることを確認します。

・「×」や「！」マークが表示されている場合、ネットワークアダプタは正常に動作していません。ネットワークアダプタの取扱説明書をご覧いただき、正常な状態にしてください。
・「Microsoft仮想プライベートネットワークアダプタ」「ダイヤルアップアダプタ」などのアダプタ名が表示されていることがありますが、これらは本商品で使用するネットワークアダプタと関係ありません。

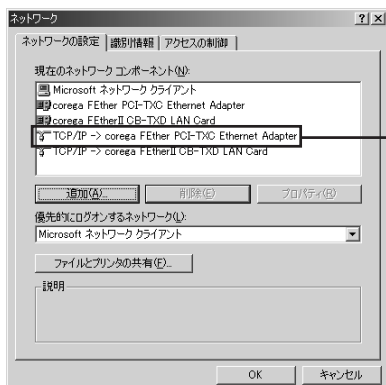
■ TCP/IP プロトコルを確認する

ここでは例としてWindows Meを使用していますが、Windows 98SEをご使用の場合も同様の手順で確認できます。

1 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

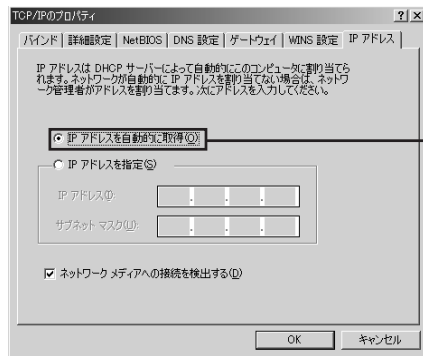
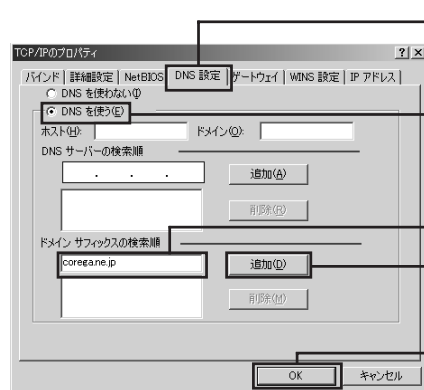
2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

メモ **Windows Meで、よく使うコントロールパネルのオプションだけが表示されているときは、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると、「ネットワーク」が表示されます。**

3 「ネットワークの設定」タブの「現在のネットワークコンポーネント」欄に「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていることを確認します。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が表示されていない場合は、「TCP/IPをインストールする」（P.22）をご覧ください。**

4 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧から「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」を選択し、［プロパティ］をクリックします。

メモ **「TCP/IP－＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が複数表示されている場合は、ご使用になるネットワークアダプタを選択します。**

5 「IP アドレス」タブの「IP アドレスを自動的に取得」を選択します。

注意 プロバイダからドメイン名も指定されている場合、「DNS 設定」タブで「DNS を使う」を選択し、「ドメインサフィックスの検索順」の欄に指定されたドメイン名を入力して［追加］をクリックしてください。

6 「TCP/IP のプロパティ」画面の［OK］をクリックします。

7 「ネットワーク」画面の［OK］をクリックします。

メモ Windows の OS 用ディスクを入れるようにダイアログが表示された場合は、CD-ROM ドライブ（またはフロッピーディスクドライブ）に Windows の OS 用ディスクを挿入し、メッセージに従って操作します。操作後、再起動を促すメッセージが表示されたら再起動します。

以上で TCP/IP プロトコルの確認は完了です。
次に「Internet Explorer の設定をしよう」（P.23）に進みます。

■TCP/IP をインストールする

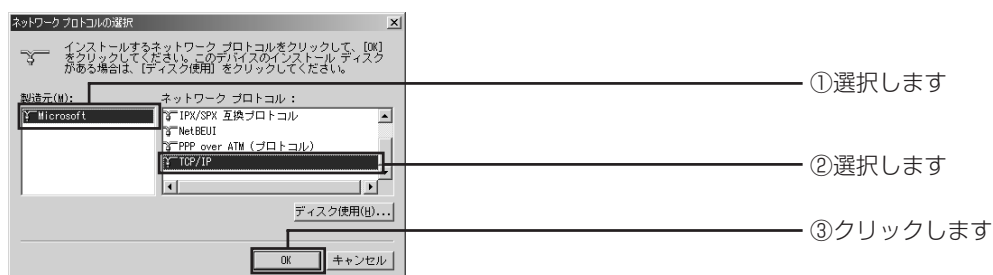
TCP/IP がインストールされていなかった場合は、次の手順でインストールします。

1 ［スタート］－「設定」－「コントロールパネル」の順にクリックします。

2 「コントロールパネル」の「ネットワーク」をダブルクリックします。

3 「ネットワーク」の画面で、［追加］をクリックします。

4 「ネットワークコンポーネントの種類の選択」画面で「プロトコル」を選択し、［追加］をクリックします。

5 「ネットワークプロトコルの選択」画面の「製造元」で「Microsoft」を選択し、「ネットワークプロトコル」の一覧から「TCP/IP」を選択して［OK］をクリックします。

6 「現在のネットワークコンポーネント」の一覧に「TCP/IP －＞XXXXX（ネットワークアダプタ名）」が追加されていることを確認します。

7 ［OK］をクリックして「ネットワーク」画面を閉じます。

8 再起動を促すメッセージが表示された場合は再起動します。

メモ **メッセージが表示されなかった場合も手動で再起動してください。**

インストールが完了したら、「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順４（P.20）以降を設定します。

Internet Explorerの設定をしよう

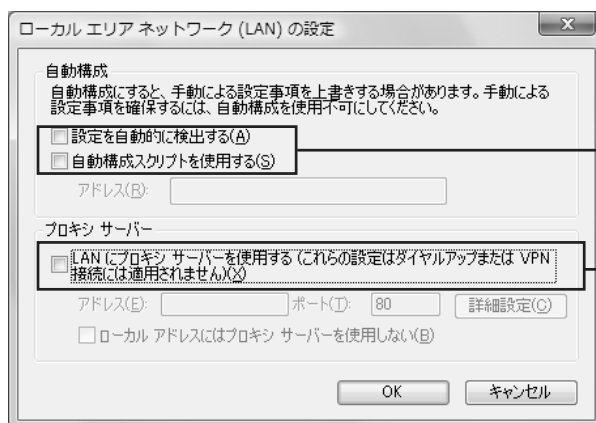
本商品を使用できるように、Internet Explorer を設定します。ここでは、Internet Explorer 7.0 の場合の設定方法を例に説明しています。そのほかの Internet Explorer の場合は、Internet Explorer のヘルプなどをご覧ください。

1 Internet Explorer を起動し、「ツール」－「インターネットオプション」の順にクリックします。

2 「インターネットオプション」が表示されたら「接続」タブをクリックします。

メモ **このとき「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」で「ダイヤルしない」が選択されていることを確認してください。**

3 「LAN の設定」をクリックします。

4 「ローカルエリアネットワーク（LAN）の設定」で、「設定を自動的に検出する」、「自動構成スクリプトを使用する」、「LAN にプロキシサーバーを使用する」のチェックを外します。

5 ［OK］をクリックします。

6 「インターネットオプション」で［OK］をクリックします。

次に「パソコンと本商品を接続しよう」（P.24）に進みます。

パソコンと本商品を接続しよう

●本商品を設置する場所について

・本商品に同梱されている「はじめにお読みください」をご覧いただき、使用時の注意などについてご確認ください。
・本商品の側面にある通気口は、放熱のためふさがないでください。
・本商品を安定させて設置する場所が見つからない場合は、付属の縦置きスタンドを本商品に取り付けることで、本商品を立てて設置できます。取り付け方法は、本商品に同梱されている「はじめにお読みください」をご覧ください。

■設置に適した場所

・水平で落下のおそれがない場所（机の上など）
・風通しのよい涼しい場所

■設置に適さない場所

・直射日光が当たる場所
・暖房器具の近くなど
・高温多湿でホコリの多い場所
・パソコンやモデムなど、発熱する機器の上

●本商品の電源を入れるには

■本商品の電源の取り方

本商品の電源は、たこ足配線などを避け、ほかの機器と別系統で取るようにしてください。必ず付属の専用ACアダプタを使用し、AC100Vの電源コンセントに接続してください。それ以外のACアダプタやコンセントを使用すると、発熱による発火や感電のおそれがあります。

■本商品の電源の入れ方／切り方

本商品背面のDCジャックにACアダプタのDCプラグを接続し、電源プラグを電源コンセントに差し込むと電源が入ります。ACアダプタの電源プラグを電源コンセントから抜くと電源が切れます。

・本商品には電源スイッチがありません。電源プラグを電源コンセントに接続した時点で、電源が入りますのでご注意ください。
・ACアダプタの電源プラグを電源コンセントに差し込んだままDCプラグを抜かないでください。感電事故を引き起こすおそれがあります。

●パソコン、モデムと本商品を有線で接続する

本商品とモデム、パソコンなど、ネットワーク接続する機器をLANケーブルで接続します。

■推奨ケーブルについて

すべてのケーブルが機器間を接続するのに適切な長さであることを確認します。本商品とパソコンを接続するLANケーブルの長さは100m以内にしてください。また、ケーブルは、1000BASE-Tで接続する場合はエンハンスド・カテゴリ5以上、100BASE-TXで接続する場合はカテゴリ5以上、10BASE-Tで接続する場合はカテゴリ3以上のLANケーブルを使用してください。

1 本商品、モデムまたは回線終端装置（ONU）、パソコンなどネットワーク接続する機器の電源をすべて切るか、電源コンセントから抜いてください。

2 本商品背面のLANポートにLANケーブルを接続します（①）。

3 LANケーブルのもう一方をパソコンのLANポートに接続します（②）。

4 本商品背面のWAN ポートに付属のLANケーブルを接続します（③）。

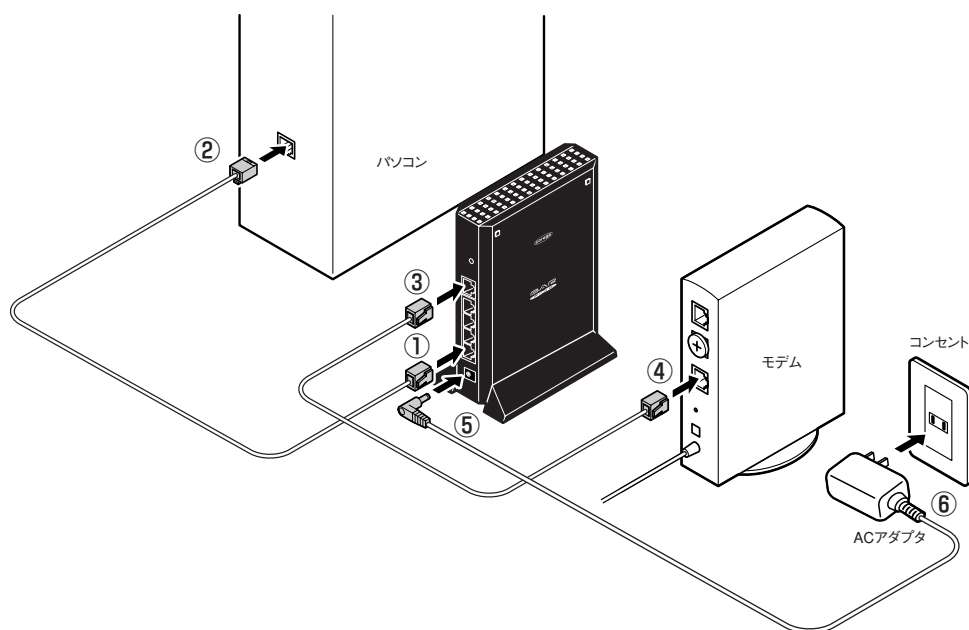
5 モデムまたは回線終端装置（ONU）のネットワークポート（RJ-45）にLANケーブルのもう一方を接続します（④）。

6 モデムまたは回線終端装置（ONU）の電源を入れます。

7 本商品背面のDCジャックに専用ACアダプタを接続します（⑤）。

8 本商品の専用ACアダプタをコンセントに接続し、本商品の電源を入れます（⑥）。本商品前面の電源、WANの各LEDが点灯していることを確認します。

9 パソコンの電源を入れます。

10 本商品前面の、ケーブルを接続したLAN側のポートの通信状態LEDが点灯していることを確認します。

本商品を設定しよう

パソコンから本商品を使ってインターネットに接続できるようにInternet Explorerで本商品を設定します。本商品に接続されているパソコンのうちの１台から設定してください。Internet Explorer には Internet Explorer 6.0 以降をご利用ください。これ以前の Internet Explorer では、正常に設定できない場合があります。推奨ブラウザについては、P.6 の「チェック４」をご覧ください。

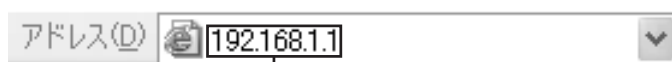
本商品を設定する際には、本商品と設定用パソコンのみを接続して設定することをおすすめいたします。

●簡単な接続方法

インターネットに接続できるように最小限の設定をします。インターネットへの接続方式は契約されたプロバイダによって異なります。P.5 の「チェック 3」で確認した情報を準備してください。

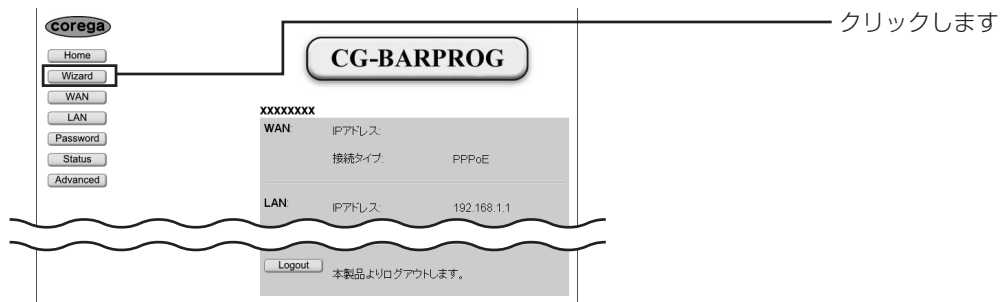
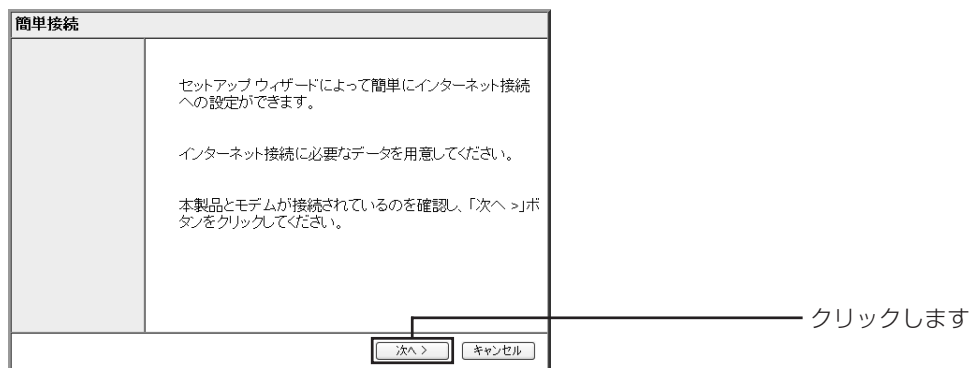
設定用パソコンでウイルス駆除ソフト、ファイアウォールソフトなどのセキュリティソフトが起動していると、本商品の設定に失敗することがあります。一時的にセキュリティソフトを停止させて本商品を設定し、設定作業が終了してから再度起動させてください。セキュリティソフトの停止・起動の方法は、セキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer を起動します。

2　Internet Explorerのアドレス入力欄に「192.168.1.1」と入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ユーザ名とパスワードを入力する画面が表示されますので、ユーザ名の欄に「root」と入力し、[OK] をクリックします。

- **工場出荷時の状態では、ユーザ名は「root」に設定されています。パスワードは設定されていません。**
- **ユーザ名、パスワードは変更できます。詳しくは「本商品のログイン名／パスワードを変更したい」（P.98）をご覧ください。**

4　設定画面が表示します。

5　設定画面の左側にある［Wizard］をクリックします。

6　「簡単接続」画面が表示されたら、［次へ］をクリックします。

7　「簡単接続ーインターネット接続（WAN側設定）」が表示されたら、ご契約のプロバイダの接続方法を選択し［次へ］をクリックします。

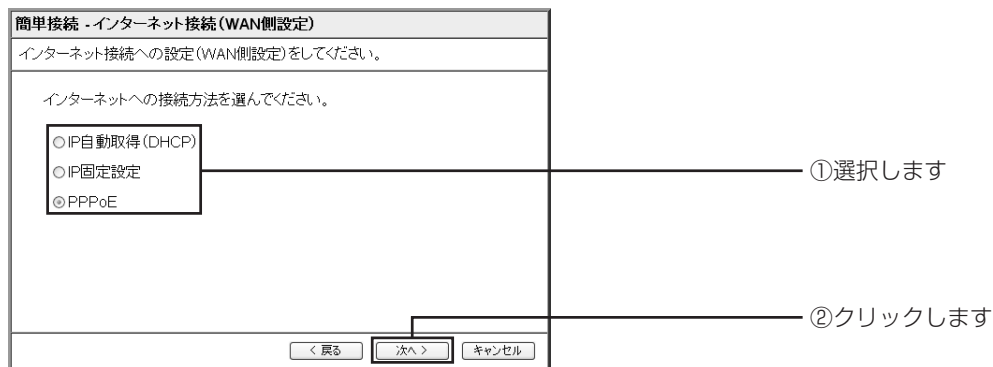
〈IP 自動取得（DHCP）ー Yahoo! BB、CATV など〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）からIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP 機能を利用して、IP アドレスが自動的に割り当てられます。

〈IP 固定設定ー固定 IP サービスなど〉

プロバイダや接続先のネットワーク（ルータ）から固定IPアドレスを取得している場合に選択します。

〈PPPoE ーフレッツ・ADSL、B フレッツなど〉

PPPoEと呼ばれる接続方法でインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダからユーザ名とパスワードが割り当てられます。本商品ではプロバイダの情報を設定画面に登録すると、「フレッツ接続ツール」などを使用せずに自動的にインターネットに接続できます。

8　接続タイプに応じて「簡単設定」の各項目を設定します。次の接続方法ごとの説明をご覧いただき、設定してください。

〈「IP 自動取得（DHCP）」の場合〉

「IP 自動取得（DHCP）」を選択した場合は、「簡単設定」で設定する項目はありません。
P.30 の手順 9 に進んでください。

〈「IP 固定設定」の場合〉

WAN 側 IP アドレスなどを入力します。

※画面は設定例です。

項目名	入力例	説明
① WAN 側 IP アドレス	12.34.56.78	プロバイダから指定されたIP アドレスを入力します。
②サブネットマスク	255.255.255.0	プロバイダから指定されたサブネットマスクを入力します。
③ゲートウェイ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたゲートウェイのIPアドレスを入力します。
④優先 DNS サーバ	12.34.56.98	プロバイダから指定されたDNS サーバのIPアドレスを入力します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。
P30 の手順 9 に進んでください。

〈「PPPoE」の場合〉

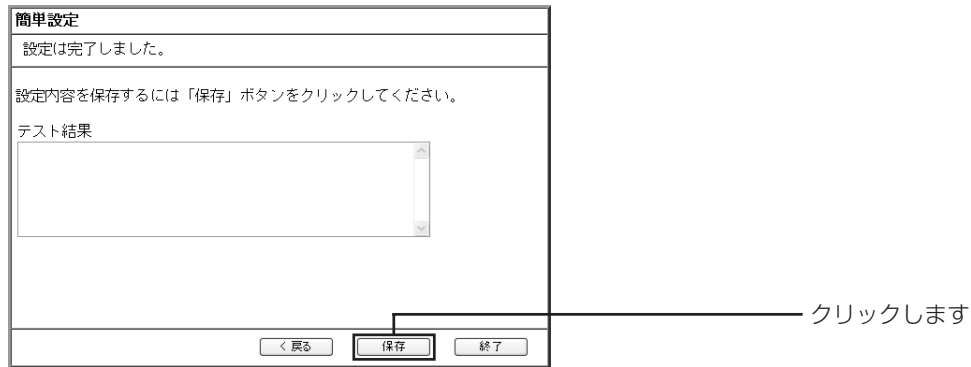
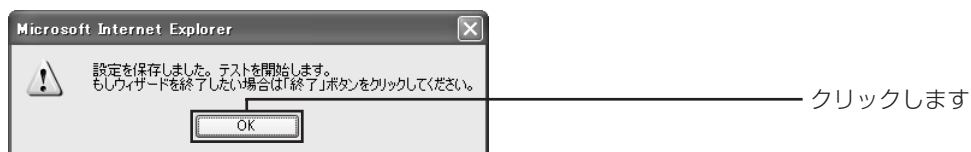
接続ユーザ名、接続パスワードを入力します。

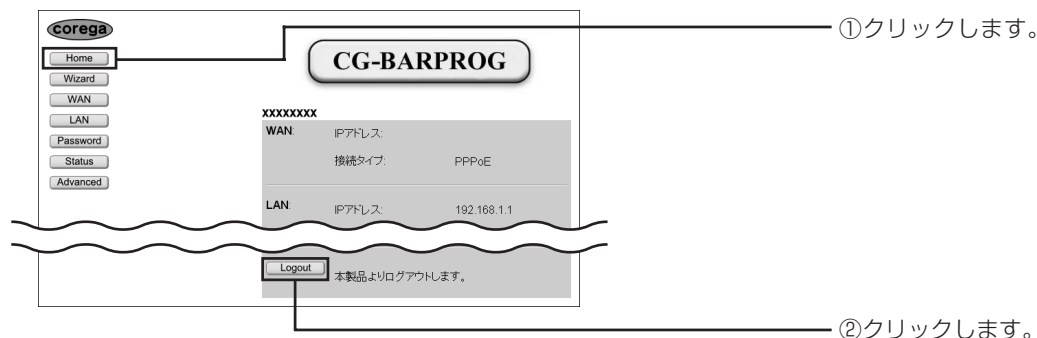
※画面は設定例です。

項目名	入力例	説明
①接続ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダから指定された接続ユーザ名を入力します（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）。
②接続パスワード	Password02	プロバイダから指定された接続パスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。画面上では「●」または「＊」で表示されます。 ※入力できる文字は、半角の英数字、記号で25文字までです。 ※「 ” 」および「 ” 」以降に入力した文字は保存されません。
③フレッツ・スクウェア	利用しない	FLET'Sシリーズにご加入の場合で、フレッツ・スクウェアをご利用になる場合はご利用地域（「東日本」もしくは「西日本」）を、利用しない場合は「利用しない」を選択します。

設定が終わったら［次へ］をクリックします。

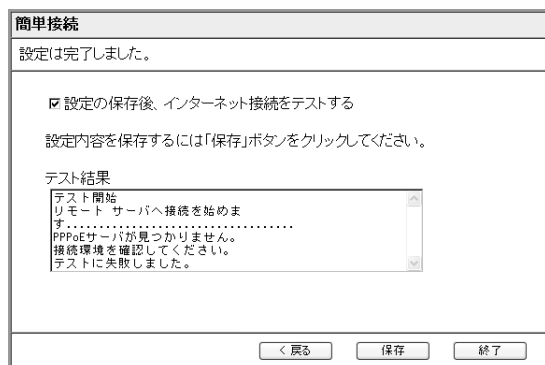
P30 の手順 9 に進んでください。

9　次の画面が表示されたら、［保存］をクリックします。

10 次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。

11 しばらくするとテスト結果が表示されます。パソコン、モデムと本商品の設定、接続に問題がなければ、テスト結果の欄に「正常にテストが終了しました」と表示されます。テスト結果を確認して［終了］をクリックします。

12 設定画面の左側にある［Home］をクリックし、次の画面に戻ったら［Logout］をクリックします。

13 Internet Explorer を終了します。

- そのほかの設定項目については、「PART3 設定画面を見てみよう」（P.33）をご覧ください。本商品のより高度な使用方法については、「PART4 こんなときにはこの設定」（P.79）をご覧ください。
- PPPoE セッションを同時に２つ使用する（マルチ PPPoE）場合には、「マルチ PPPoE で２つの接続先を使い分けるには」（P.83）をご覧ください。

■テストに失敗したときは

テスト終了後、次のような画面が表示されたときは、メッセージの内容を確認して、再度ウィザードをやり直してください。

上の画面が表示された場合、次のような原因が考えられます。

・ユーザ名かパスワードの入力を間違えている
　プロバイダからの契約書類などを確認して、正しく入力してください。

・モデムと回線が正しく接続されていない
　モデムとスプリッタ、スプリッタとモジュラコンセントなどが正しく接続されているか、確認してください。

・本商品と接続する前にモデムと直接接続していた／ほかのルータを使用していた
　直前の回線接続が正しく終了していない可能性があります。モデムやONU（回線終端装置）の電源を切り、15 分以上時間を空けてからあらためて接続・設定してください。

インターネットに接続してみよう

パソコンと本商品の設定が完了したら、インターネットに接続できるか確認します。

1　本商品に接続したパソコンで、Internet Explorer などの Web ブラウザを起動します。

2　Webブラウザのアドレス入力欄にコレガのホームページアドレス「http://corega.jp/」を入力し、キーボードの「Enter」キーを押します。

3　ホームページが表示されます。

ご契約のプロバイダによっては、設定後、インターネットに接続できるようになるまでに、時間がかかる場合があります。詳しくは、ご契約のプロバイダにお問い合せください。

もし、インターネットに接続できなかった場合は、「PART5 トラブルや疑問があったら」（P.93）をご覧ください。

●ほかのパソコンを接続する場合

本商品に接続したいパソコンがほかにもある場合は、「パソコンのネットワーク設定をしよう」（P.7）、「Internet Explorerの設定をしよう」（P.23）、「パソコンと本商品を接続しよう」（P.24）をご覧いただき、同じ手順でパソコンを設定し、本商品とパソコンの LAN ポートを LAN ケーブルで接続してください。

PART 3

設定画面を見てみよう

本商品を使っていて「高度な機能を使いこなしたい」、「設定画面の詳しい情報が知りたい」と思ったときは、このPARTで項目を探してください。

- このPARTでは、例を使用して説明しています。実際にはご使用の環境に合った値を入力してください。
- 各設定画面にある［ヘルプ］をクリックすると、説明が表示されます。
- 各設定画面の例は、PPPoE接続の画面です。IP自動取得接続やIP固定接続では、画面が例と違う場合があります。
- 設定変更した際は、各画面面下にある［設定］または［更新］、［保存］をクリックして、設定内容を保存してください。

設定画面の全体構成について

設定画面の各機能

●CG-BARPROG-X / CG-BARPROG（トップページ）

設定画面のトップページです。

項目名	説明
① WAN	インターネット側の状態を表示しています。
② LAN	LAN側のIPアドレスやDHCPサーバの状態を表示しています。
③ Time	現在の時刻を表示します。
④ ［ユーザ登録］	ユーザ登録できます。
⑤ ［取扱説明書］	取扱説明書をダウンロードできます。
⑥ ［Q and A］	本商品の Q&A を確認できます。
⑦ ［Logout］	本商品からログアウトします。

●Wizard

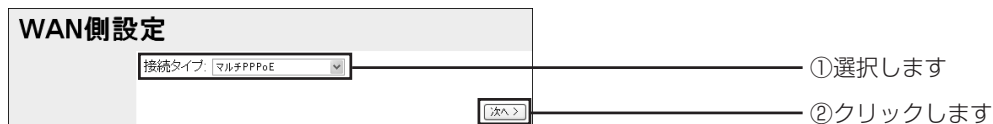
インターネット接続を簡単に設定します。設定の詳細については、「PART2 ネットワークに接続しよう」の「本商品の設定をしよう」（P.26）をご覧ください。

●WAN

WAN側のIPアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、DNSサーバアドレスの設定、PPPoEの設定などインターネットに接続するための基本となる設定を行います。契約したプロバイダの接続タイプに合わせて設定します。［Wizard］で設定済みの場合は、その設定内容が表示されます。

通常は［Wizard］で設定してください。

1　画面左側のメニューで［WAN］をクリックします。

2　ご契約のプロバイダの接続タイプを選択し、［次へ］をクリックします。

・DHCPで接続する場合（P.36）
プロバイダからIPアドレスが特に指定されていない場合に選択します。DHCP機能を利用して、IPアドレスが自動的に割り当てられます。Yahoo! BB、CATVなどの場合は、リストから「DHCP/固定IP」を選択してください。

・固定IPアドレスで接続する場合（P.37）
プロバイダから固定IPアドレスを取得している場合に選択します。リストから「DHCP/固定IP」を選択してください。

各プロバイダが提供する固定IPアドレスサービスで、Bフレッツやフレッツ・ADSLで接続する場合は、「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・PPPoEで接続する場合（P.38）
PPPoEと呼ばれる接続方法でインターネットに接続する場合に選択します。プロバイダからユーザ名とパスワードが割り当てられます。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

・Unnumbered IPで接続する場合（P.39）
プロバイダから複数のWAN側のIPアドレス（グローバルIPアドレス）を取得し、PPPoE接続する場合に選択します。リストから「PPPoE/Unnumbered IP」を選択してください。

Unnumbered IPとは、Bフレッツやフレッツ・ADSLで、プロバイダから取得した複数のWAN側のIPアドレス（グローバルIPアドレス）をパソコンに割り当てられるサービスです。

・ローカルルータとして接続する場合
本商品をローカルルータとして使用する場合に選択します。リストから「LOCAL OFFICE」を選択してください。詳しくは、「社内LANで使用するには」（P.85）をご覧ください。

・マルチPPPoEで接続する場合（P.41）
PPPoEセッションを同時に2つ使用する場合に選択します。リストから「マルチPPPoE」を選択してください。

本商品は、1つのブロードバンド回線で、通常のインターネットに接続するPPPoE接続（セッション1）とは別に、特定の接続先にほかの経路（セッション2）で接続できます。これによりインターネットサービスプロバイダと接続したまま、同時にPPPoEを利用したサービス（フレッツ・スクウェアなど）を利用できます。

■ DHCPで接続する場合

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合に入力します。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 1 〜 19 文字です。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合や、独自にドメイン名をお持ちの場合に入力します。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 1 〜 50 文字です。
③ IP アドレス	IP アドレスの設定を選択します。 ■ IP アドレス自動取得（DHCP） DHCP機能を利用してIPアドレスを自動的に取得する場合、プロバイダから IP アドレスを自動的に割り当てられる場合（CATV など）は、こちらを選択します。 ※工場出荷時は、「IP アドレス自動取得（DHCP）」が選択されています。
④ DNS	DNS の設定を選択します。 ■自動取得 プロバイダより DNS サーバを自動設定するような指示があった場合、または特に指示がなかった場合に選択します。 ■優先 DNS サーバ プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 入力例：12.34.56.98 ※工場出荷時は、「自動取得」が選択されています。

メモ **入力できる半角英数字記号は0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~ です。**

■固定 IP アドレスで接続する場合

項目名	説明
①ホスト名	プロバイダからホスト名を指定されている場合に入力します。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 1 ～ 19 文字です。
②ドメイン名	プロバイダからドメイン名を指定されている場合、または独自にドメイン名をお持ちの場合に入力します。指定がない場合は空欄にしてください。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 1 ～50 文字です。
③ IP アドレス	IP アドレスの設定を選択します。 ■固定 IP アドレス プロバイダから固定 IP アドレスを割り当てられている場合（固定 IP サービスなど）に選択します。 ※工場出荷時は、「IP アドレス自動取得（DHCP)」が選択されています。 ・IPアドレス：プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。 入力例：12.34.56.78 ・サブネットマスク：プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。 入力例：255.255.255.0 ・ゲートウェイ：プロバイダから指定されたゲートウェイのアドレスを入力します。 入力例：12.34.56.1
④ DNS	DNS の設定を選択します。 ■自動取得 プロバイダから特に指定されていない場合に選択します。 ■優先 DNS サーバ プロバイダから DNS サーバの IP アドレスを指示された場合に選択し、指定された IP アドレスを入力します。 入力例：12.34.56.98

メモ

入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜ です。

■ PPPoE で接続する場合

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	アカウント 1	「PPPoE 設定」で表示される名称を登録できます。入力できる文字は半角英数字記号で 1 ～ 19 文字（全角は 9 文字）です。
②ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定されたユーザ名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で1～25文字です。
④接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガ接続：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的に接続します。 ・手動接続：「Status」から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で［接続］をクリックすることで、接続します。
⑤無通信タイマ	15	PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的に PPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0 ～ 99 分の間で指定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥通常接続	―	通常の PPPoE で接続する場合に選択します。

項目名	入力例	説明
⑦ DNS	ー	DNS の設定を選択します。 ■自動取得 プロバイダから特に指定されていない場合に選択します。 ■優先 DNS サーバ プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 入力例：12.34.56.98

入力できる半角英数字記号は0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜ です。

■ Unnumbered IP で接続する場合

Unnumbered IP 接続の場合、リモート設定を使用しなくても、WAN 側より本商品を設定できます。セキュリティ上、このPARTの「Password」（P.49）および「Advanced」の「リモート設定」（P.75）で「リモート設定を使用する」にチェックを付けて、ポート番号を変更してください。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 接続名	アカウント 1	「PPPoE 設定」で表示される名称を登録できます。入力できる文字は半角英数字記号で 1 〜 19 文字（全角は 9 文字）です。
②ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダより指定されたユーザ名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。
③パスワード	Password02	プロバイダより指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で1〜25文字です。

項目名	入力例	説明
④接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常にインターネットに接続します。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガ接続：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的に接続します。 ・手動接続：「Status」から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で［接続］をクリックすることで、接続します。
⑤無通信タイマ	15	PPPoE 接続で無通信状態になってから自動的にPPPoE接続を切断するまでの時間を設定します。0～99 分の間で指定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑥ Unnumbered IP	－	プロバイダから複数のWAN側のIPアドレスを取得し、Unnumbered で PPPoE 接続する場合に選択します。 ※工場出荷時は「通常接続」が選択されています。
⑦ IP アドレス	XXX.XXX.XXX.1	プロバイダから指定されたIPアドレスを入力します。
⑧サブネットマスク	255.255.255.248	プロバイダから指定されたサブネットマスクのアドレスを入力します。
⑨タイプ	Unnumbered IP	メニューから、使用するタイプを選択します。 ・Unnumbered IP：WAN 側の IP アドレスを複数使用する場合に選択します。 ・Unnumbered IP + Private：WAN 側の IP アドレスと、LAN 側の IP アドレスを同時に使用する場合に選択します。
⑩ DNS	－	DNS の設定を選択します。 ■自動取得 プロバイダから特に指定されていない場合に選択します。 ■優先 DNS サーバ プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指示された場合に選択し、指定されたIPアドレスを入力します。 入力例：12.34.56.98

メモ **入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ {¦}~ です。**

■マルチ PPPoE 接続の場合

・事前に契約や登録が必要なサービスを利用する場合は、事前にそれらを完了しておいてください。
・セッション2では登録済アプリケーション、スペシャルアプリケーションを使用できません。そのほかマルチ PPPoE 機能使用時の制限事項については、この PART の「マルチ PPPoE 機能での制限事項」（P.45）をご覧ください。

項目名	説明
①アカウント	PPPoE アカウントを登録します。本商品は 5 つの PPPoE アカウントを登録できます。
②セッション	セッション接続を指定します。セッションごとに使用するアカウントを選択できます。セッション 1 およびセッション 2 は同時に複数のアカウントを選択できません。

設定内容を変更するには［次へ >］または設定したい［アカウント１～5］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント２	PPPoE アカウントを変更できます。「PPPoE 設定」アカウントリストから設定内容を変更したいアカウントを選択し、②～⑮を設定します。 ※登録したＰＰＰｏＥ アカウントの設定には、「PPPoE 接続名」の入力欄で、任意の名前を付けられます。
②接続指定	セッション２	「PPPoE設定」で選択したアカウントで使用するセッションを選択します。「接続先設定」画面で指定した接続先への通信を検出した場合は、セッション２を使用して接続します。それ以外の通信は、セッション１を使用して接続します。 ・指定なし：選択したアカウントで PPPoE 接続しない場合に選択します。 ・セッション１：選択したアカウントで通常のインターネットに接続するときに選択します。 ・セッション２：選択したアカウントで特定の接続先に接続する場合に選択します。［IP アドレス追加］、［ドメイン追加］、［ポート追加］のいずれかをクリックして、接続先を指定します。
③ PPPoE 接続名	アカウント２	「PPPoE 設定」を任意の名前で登録できます。 ※工場出荷時は「アカウント１～5」が入力されています。
④ユーザ名	myname@isp.ne.jp	プロバイダから指定されたユーザ名（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。「フレッツ・ADSL」や「B フレッツ」の場合、“@”から後ろもすべて入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 60 文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。

項目名	入力例	説明
⑤パスワード	Password02	プロバイダから指定されたパスワード（プロバイダによって呼び方が異なる場合があります）を入力します。パスワードは画面上では「＊」や「●」で表示されます。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 25 文字までです。大文字と小文字は別の文字として扱われます。
⑥接続方法	常時接続	インターネットへの接続方法を選択します。 ・常時接続：常に PPPoE 接続した状態になります。何らかの原因で接続が切れた場合、自動的に再接続します。 ・トリガ接続：パソコンからインターネットへの接続要求があったときに、自動的に接続します。 ・手動接続：「Status」から［詳細］をクリックして表示される「詳細情報-PPPoE」画面で［接続］をクリックすることで接続します。
⑦無通信タイマ	15	PPPoE 接続で無通信状態になってから、自動的に PPPoE 接続を切断するまでの時間を設定します。0 ～ 99 分の間で設定してください。 ※0分を設定すると自動では切断しません。「接続方法」で「常時接続」を選択した場合は、「0」分になります。
⑧ DNS	－	DNS の設定を選択します。 ■自動取得 プロバイダから特に指定されていない場合に選択します。 ■マニュアル設定 プロバイダからDNSサーバのIPアドレスを指定された場合に選択します。「マニュアル設定」を選択すると「優先DNSサーバ」と「代替DNSサーバ」の各入力欄が表示されます。 ・優先 DNS サーバ プロバイダから指定されたプライマリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。 入力例：12.34.56.98 ・代替 DNS サーバ プロバイダから指定されたセカンダリ DNS サーバの IP アドレスを入力します。 入力例：98.76.54.32 ※指定された DNS サーバが 1 つの場合、優先 DNSサーバにアドレスを入力してください。3 つ以上の DNS サーバアドレスを設定する場合は、3 つ目以降を［Advanced］－「その他各種設定」の「バックアップ DNS サーバ」に入力してください。

項目名	入力例	説明
⑨接続先設定	−	セッション2を利用して通信する特定の接続先をIPアドレス、ドメイン名ポート番号のいずれかで指定します。[IPアドレス追加]、[ドメイン追加]、[ポート追加]をクリックして表示されるそれぞれの「接続先設定」画面で接続先を登録します。詳しくは接続先設定（P.46）をご覧ください。 ※「接続指定」でセッション2を選択したときのみ「有効」になります。 ・[IPアドレス追加]：特定の接続先をIPアドレスで指定する場合にクリックします。 ・[ドメイン追加]：特定の接続先をドメイン名で指定する場合にクリックします。 ・[ポート追加]：特定のポート番号で指定する場合にクリックします。 ・「NetBios 有効」：NetBIOS を透過する場合にチェックを付けます。

入力できる半角英数字記号は0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜ です。

・マルチ PPPoE 機能での制限事項

機　能	マルチPPPoE		PPPoE / PPPoE Unnumbered
	セッション1	セッション2	
WAN側設定			
PPPoE	×	×	○
マルチPPPoE	○	○	×
Unnumbered	×	×	○
Unnumbered + Private	×	×	○
接続方法	○	○	○
無通信タイマ	○	○	○
ステータス			
ログ機能	○	○	○
E-Mail機能	○	○	○
Messengerなどのソフトウェア			
Windows Messenger4.7	○	×	○
MSN Messenger6.1以降※1	○	×	○
アドバンスド インターネット			
登録済アプリケーション	○	×	○
スペシャルアプリケーション	○	×	○
DMZ	○	○	○
バーチャルサーバ			
バーチャルサーバ	○	○	○
ダイナミックDNS			
ダイナミックDNS	○	○	○
アクセス制限			
アクセス制限	○	○	○
スケジュール設定	○	○	○
セキュリティ			
DoS	○	○	○
SPI	○	○	○
URLフィルタ	○	○	○
ICMP	○	○	○
VPN※2	○	○	○
ログ機能			
DoS攻撃	○	○	○
インターネット接続	○	○	○
アクセス制限	○	○	○
PCデータベース			
PCデータベース	○	○	○
ルーティング			
RIP	○	○	○
スタティックルーティング	○	○	○
リモート設定			
リモート接続	○	○	○
そのほかの機能			
UPnP※3	○	×	○
MTU手動設定	○	○	○

※1　Windows XP のみ対応しています。
※2　IPSec は、IP エンドポイントを指定する通信のみ対応します。
※3　WAN 側切断処理（WAN の切断機能を有効にする）は、Windows XP がゲートウェイアイコンを 1 つしか持てないため、セッション 1 のみ有効です。

● 「接続先設定」画面について
セッション２を使用して通信する場合の接続先を設定します。

〈接続先を IP アドレスで指定する場合〉
1 「接続先設定」で［IP アドレス追加］をクリックして、次の画面を表示します。

項目名	入力例	説明
① IP アドレス	10.20.30.40-0	セッション2で通信する接続先をIPアドレスの範囲で指定できます。セッション２で通信する接続先の IP アドレスの範囲を入力して、［追加］をクリックします。単独でIPアドレスを設定する場合は、終了アドレスに「0」を入力してください。「ネットワーク」（②）の設定と合わせて最大10個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されている IP アドレスをクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリックで複数選択できます。
②ネットワーク	172.25.0.0/16	セッション２で通信する接続先を、ネットマスクの範囲で指定できます。セッション２で通信する接続先のネットワークアドレスとネットマスクを入力して、［追加］をクリックします。「IP アドレス」（①）の設定と合わせて最大 10 個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リスト表示されているネットマスク範囲をクリックし、反転表示させてから、［保存］をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー＋左クリックで複数選択できます。
③全て選択	ー	クリックすると、表示されているドメイン名すべてを選択（反転表示）できます。
④選択取消し	ー	クリックすると選択されている状態から何も選択されていない状態になります。
⑤全て削除	ー	選択されていないドメイン名も含めてすべて削除します。
⑥削除	ー	選択されているドメイン名を削除します。

2 ［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

〈接続先をドメイン名で指定する場合〉

1 「接続先設定」で［ドメイン追加］をクリックし、次の画面を表示します。

項目名	入力例	説明
①ドメイン名	myhome	セッション2で通信する接続先のドメイン名または文字列を入力し、[追加] をクリックしてリストに登録します。最大 10 個まで登録できます。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているドメイン名をクリックし、反転表示させてから、[保存] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択できます。

［全て選択］、［選択取消し］、［削除］、［全て削除］の各ボタンの説明は、P.46 の③〜⑥をご覧ください。

2 ［閉じる］をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

・「jp」のみ登録した場合は、「jp」を含むすべてのドメインを登録したことになります。
（例）www.abcd.co.jp
www.abcd-jp.com
最後に「/」を入力すると文字列の終わりを示します。「.jp/」と登録すると、「www.abcd-jp.com/」は該当せず、「www.abcd.co.jp」のみセッション 2 で通信するようになります。

・階層で接続先を登録する場合は次のように登録してください。
「.jp/」 ：「jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
「.co.jp/」 ：「co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。
「.xxxx.co.jp/」：「xxxx.co.jp」が付くすべてのドメインが登録されます。

・フレッツ・スクウェアを接続先に登録する場合は「.flets/」を登録してください。

〈接続するポートで指定する場合〉

1　「接続先設定」で［ポート追加］をクリックし、次の画面を表示します。

項目名	入力例	説明
①ポート	3389-3389	接続するポート番号を入力し、[追加] をクリックしてリストに登録します。最大 10 個まで登録できます。単独でポート番号を設定する場合は、入力例のように開始ポート、終了ポート間に同じ数字を入力します。登録した接続先を有効にするには、リストに表示されているポート番号をクリックし、反転表示されてから、[保存] をクリックして設定内容を保存する必要があります。「Ctrl」キー+左クリックで複数選択もできます。

[全て選択]、[選択取消し]、[削除]、[全て削除] の各ボタンの説明は、P.46 の③〜⑥をご覧ください。

2　[閉じる] をクリックして、マルチ PPPoE の設定画面に戻ったら［保存］をクリックします。

●LAN

本商品のLAN側の設定を表示します。

1　メニューから［LAN］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① IP アドレス	192.168.1.1	本商品のLAN側に設定するIPアドレスを入力します。特殊な設定以外は工場出荷時の状態で使用することをお勧めします。
②サブネットマスク	255.255.255.0	本商品のLAN側に設定するサブネットマスクを入力します。
③開始 IP アドレス	192.168.1.11	DHCPサーバで本商品に接続するパソコンに自動的に割り当てられるIPアドレスの開始アドレスを入力します。
④終了 IP アドレス	192.168.1.60	DHCPサーバで本商品に接続するパソコンに自動的に割り当てられるIPアドレスの終了アドレスを入力します。
⑤ DHCP サーバ	－	チェックを付けると本商品のDHCP機能が有効になります。 ※工場出荷時の設定値はチェックが付いています。

- ［保存］をクリックすると、本商品に設定が反映されます。本商品のDHCPサーバを利用している場合は、1度設定画面を閉じ、パソコンを再起動させてください。パソコンのIPアドレスが設定変更後のLANの設定に合わせて、改めて割り当てられます。
- 本商品で設定できるのはクラスCのみです。

●Password

本商品の設定ユーティリティにアクセスする際のログイン名とパスワードを設定します。ログイン名とパスワードを設定すると、設定ユーティリティを起動する際にログイン名とパスワードの入力が必要になります。セキュリティ上、パスワードの設定をおすすめします。パスワードの変更手順については、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「本商品のログイン名／パスワードを変更したい」（P.98）をご覧ください。

- パスワードを忘れると、設定を表示できなくなりますのでご注意ください。
- 初期化スイッチを使用して本商品を工場出荷時の状態に戻した場合、設定したパスワードは初期化され、ログイン名は「root」、パスワードは「なし」の状態に戻ります。詳細は「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧ください。
- ログイン名およびパスワードで空白を設定すると認証しないで設定画面を表示できます。

●Status

インターネットへの接続状態や本商品のシステム情報などを表示します。利用する接続方式によって表示される画面が異なります。

1　メニューから［Status］をクリックします。

※画面はPPPoE接続時のものです。

項目名	説明
①接続タイプ	現在、使用されている接続タイプを表示します。
②モデムの状態	現時点での本商品のWANポートとモデムなどの機器との接続状態を表示します。 ・「ON」：接続しています。 ・「OFF」接続していません。
③接続状態	現時点での接続状態を表示します。 ・「接続中」：正常に動作しています。 ・「未接続」：WAN側のネットワークと通信していません。
④ WAN側IPアドレス	本商品のWAN側のIPアドレスを表示します。 ※マルチPPPoE設定の場合、「WAN側IPアドレス」（セッション1）の下にセッション2のIPアドレスも表示されます。
⑤セッション	選択されているセッションが表示されます。
⑥ LAN側IPアドレス	本商品のLAN側のIPアドレスを表示します。
⑦サブネットマスク	本商品のLAN側のサブネットマスクを表示します。
⑧ DHCPサーバ	本商品のDHCPサーバ機能の状態を表示します。「ON」か「OFF」のいずれかが表示されます。
⑨デバイス名	本商品のデバイス名を表示します。デバイス名は「GPxxxxxx」で表示されます。「xxxxxx」は本商品のLAN側のMACアドレスの下6桁の数値です。
⑩ファームウェアバージョン	本商品のファームウェアのバージョンを表示します。

〈ボタンについて〉

項目名	説明
①［再読み込み］	最新の接続状態を表示したいときにクリックします。
②［詳細］	接続状態の詳細を表示したいときにクリックします（P.52）。
③［ファームウェア更新］	「ファームウェア更新」画面を表示したいときにクリックします。ファームウェアの更新の方法は、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.99）をご覧ください。
④［リセット機能］	本商品のシステム リブート、または工場出荷時の状態に戻すときにクリックします。詳しくは、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「本商品を再起動する」（P.102）または「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧ください。
⑤［システムデータ］	システム情報を表示したいときにクリックします。
⑥［設定保存］	現在の設定内容をバックアップできます。設定変更後に通信できなくなったときなどに、保存したバックアップファイルを使用して設定内容を元に戻します。次の手順で設定をバックアップします。 ①［設定保存］をクリックします。 ②「ファイルのダウンロード」画面の［保存］をクリックします。 ③「名前を付けて保存」画面で保存先とファイル名を指定して［保存］をクリックします。 バックアップファイルを元に戻す方法は、「PART5 トラブルや疑問があったら」の「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」（P.99）とほぼ同じです。保存したバックアップファイルを選択してください。
⑦［E-Mail 機能］	E メール機能を設定するときにクリックします（P.56）。
⑧［ログ機能］	ログ機能を設定するときにクリックします（P.55）。

・「詳細情報」画面…②

インターネットへの接続状態の詳細情報が表示されます。

1　メニューから［Status］をクリックします。

2　「ステータス」画面の［詳細］をクリックします。利用する接続方式によって、表示される画面が異なります。

■ DHCP を利用する場合

項目名	説明
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システムデータ］をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本商品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本商品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。
⑦リース取得	IP アドレスを取得した日時が表示されます。
⑧残りリース時間	IP アドレスが解放されるまでの残り時間が表示されます。
⑨［再読み込み］	最新の情報を表示します。
⑩［解放］/［書き換え］	・［解放］: DHCP クライアントが「ON」のときに［解放］をクリックすると、IP アドレスを解放します。 ・［書き換え］: DHCP クライアントが「ON」のときに［書き換え］をクリックすると、IP アドレスを取得します。

■固定 IP アドレスで接続する場合

項目名	説明
① MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システムデータ］をクリックして表示される画面で確認できます。
② IP アドレス	本商品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
③サブネットマスク	本商品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
④ゲートウェイ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するゲートウェイが表示されます。
⑤ DNS サーバ	インターネット接続（送信先のネットワーク）に使用するDNSサーバのアドレスが表示されます。
⑥ DHCP クライアント	WAN 側の DHCP クライアント機能の状態が表示されます。

■ PPPoE 接続の場合

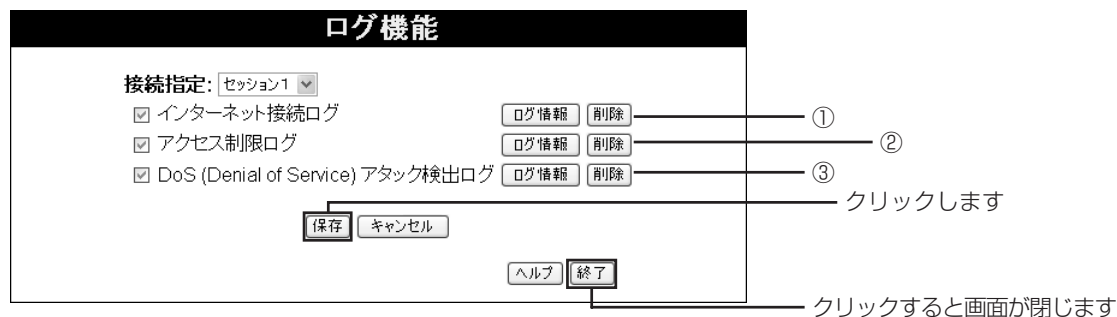
項目名	説明
①接続指定	詳細を表示するセッションを「セッション 1」と「セッション 2」から選択します。
② MAC アドレス	本商品の WAN 側の MAC アドレスが表示されます。 ※ LAN 側の MAC アドレスは「ステータス」画面の［システムデータ］をクリックして表示される画面で確認できます。
③ IP アドレス	本商品の WAN 側の IP アドレスが表示されます。
④サブネットマスク	本商品のWAN側のIPアドレスに使用するサブネットマスクが表示されます。
⑤接続状態	現在の接続状態を表示します。 ・「ON」：接続中です。 ・「OFF」：未接続です。 ※「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしていて、未接続の場合に［接続］をクリックすると、インターネットに接続できます。［切断］をクリックするとインターネット接続を切断します。
⑥接続ログ	インターネットへの接続ログが表示されます。ログメッセージの詳細は、ヘルプをご覧ください。
⑦［ログの削除］	表示されているログを削除します。
⑧［切断］	接続状態が「ON」のときにインターネットへの接続を切断します。「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしているときのみ使用できます。「常時接続」に設定している場合は、いったん接続を切断されますが、すぐに再接続されます。
⑨［再読み込み］	最新のログを表示します。
⑩［接続］	接続状態が「OFF」のときにインターネットへ接続します。「接続方法」の設定を「トリガ接続」、または「手動接続」にしているときのみ、使用できます。

エラーメッセージやログの内容は、セキュリティ上情報を公開していません。

■「ログ機能」画面

本商品では、インターネット接続やアクセス制限などのログを残せます。

1　メニューから［Status］をクリックします。

2　「ステータス」画面の［ログ機能］をクリックします。

項目名	説明
①インターネット接続ログ	チェックを付けるとインターネット接続に関してのログを残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
②アクセス制限ログ	チェックを付けるとアクセス制限機能によってブロックされた情報をログに残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。
③DoS（Denial of Service）アタック検出ログ	チェックを付けるとDoS（Denial of Service）攻撃を検出したときにログを残します。［ログ情報］をクリックすると現在のログを表示します。［削除］をクリックするとログが削除されます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。

エラーメッセージやログの内容は、セキュリティ上情報を公開していません。

3　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

■「E-Mail 機能」画面
本商品には、E メールによるログ情報の配信機能があります。本機能を使用することでログをメールで通知することができます。

1　メニューから［Status］をクリックします。

2　「ステータス」画面の［E-Mail 機能］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① DoS アタック検出時にログを送信する	ー	チェックを付けるとDosアタックを検出したときに、ログをメールで送信します。
②インターネット	ー	チェックを付けると、インターネット接続に関するログを、「送信」（④）で設定した送信方法でメールを送信します。
③アクセス制限ログ	ー	チェックを付けると、アクセス制限機能によってブロックされた情報を記録したログを、「送信」（④）で設定した送信方法でメールを送信します。
④送信	ー	ログ情報を送信するタイミングを選択します。ログが一杯になったときに送信する場合は「ログが一杯の時」を選択し、曜日と時間を決めて送信する場合は曜日を選ぶ項目のチェックボックスにチェックを付け、曜日と時間を指定します。 ※ログ情報がいっぱいになると、設定よりも前に送信されます。
⑤送信先 E-Mail アドレス	corega@xxx.ne.jp	ログ情報の送信先（E メールアドレス）を設定します。 ※入力できる文字は、半角英数字記号で 32 文字までです。
⑥件名	log info	「E-Mail ログ送信」を有効にした場合、E-Mail 送信時の件名を入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 29 文字までです。 ※件名に全角文字を入れた場合、受信側で文字化けする場合があります。
⑦送信用（SMTP）サーバ	12.34.56.1	プロバイダから指定されたメール送信用（SMTP）サーバのホスト名か IP アドレスを設定します。 ※ホスト名を指定する場合、入力できる文字は、半角英数字記号で 50 文字までです。

項目名	入力例	説明
⑧ポート番号	25	送信用（SMTP）サーバに接続する際に使用するポート番号を設定します。 ※ポート番号は1～65534の半角数字を入力してください。 ※工場出荷時のポート番号は「25」です。

・入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _{¦}˜ です。
・エラーメッセージやログの内容は、セキュリティ上情報を公開していません。
・メール送信機能は、「POP before SMTP」に対応していません。

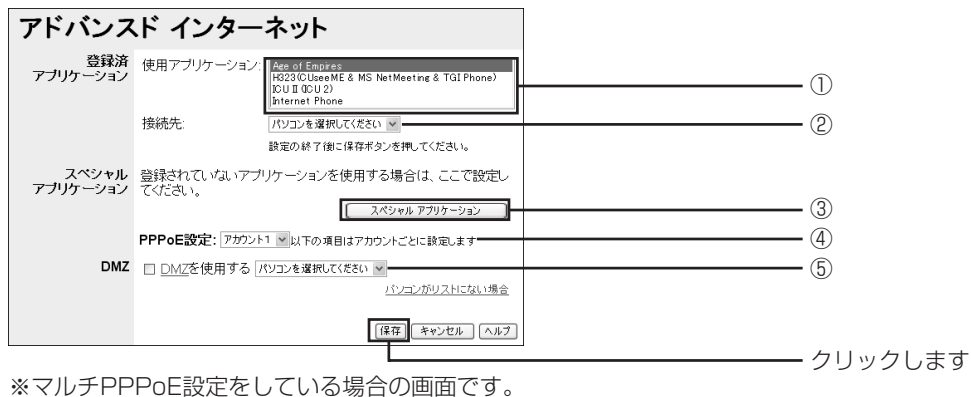
3　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

●Advanced

ネットワークアプリケーションを利用する際のポート設定やセキュリティ設定、バーチャルサーバ設定など、本商品のより高度な機能を設定できます。

■アドバンスド インターネット

ネットワークゲームなど、ファイアウォールによって、着信データの接続先が不明になってしまうアプリケーションを利用する際に設定します。おもなアプリケーションについては、あらかじめ入力／出力ポートが設定してあります。

1　メニューから［Advanced］－「アドバンスドインターネット」をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	説明
①使用アプリケーション	使用するアプリケーションを選択します。ここに表示されるのは、入力／出力ポートが設定済みのアプリケーションです。
②接続先	アプリケーションを利用するパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PCデータベース」(P.70)で登録してください。
③スペシャルアプリケーション	「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合は、［スペシャルアプリケーション］をクリックして、新しく設定します。
④ PPPoE 設定	DMZ 設定する場合のアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
⑤ DMZ	DMZ 機能を有効にします。「登録済アプリケーション」や「スペシャルアプリケーション」で設定してもアプリケーションが動作しない場合には DMZ 機能を使用します。アプリケーションを利用するパソコンを選択して、「DMZ を使用する」にチェックを入れます。 ※ DMZ を設定したパソコンは、本商品のセキュリティ機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は必要な場合のみ有効にしてご使用ください。 ※ マルチ PPPoE 接続の場合は、アカウントごとに設定することができます。 ※解除するときはチェックを外します。

2　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

・「スペシャル アプリケーション」画面
「アドバンスド インターネット」画面の「登録済アプリケーション」の一覧にないアプリケーションを利用する場合や、アプリケーションが正しく動作しない場合に、個別に設定できます。

1　メニューから［Advanced］－「アドバンスドインターネット」をクリックします。

2　「アドバンスド インターネット」画面で［スペシャル アプリケーション］をクリックします。

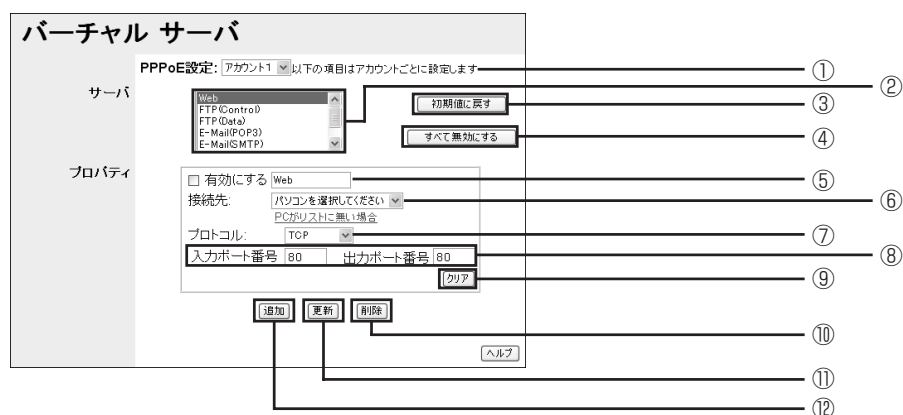
項目名	入力例	説明
①チェックボックス	－	利用するアプリケーションにチェックを付けます。
②名称	dialpad	ネットワークアプリケーションの名前を任意で入力します。 ※入力できる文字は、半角英数字記号で 12 文字までです。大文字は小文字に自動的に変換されます。
③入力ポート番号		
タイプ	udp	入力ポートのプロトコルタイプを「udp」か「tcp」から選択します。
開始～終了	51200～51201	パソコンがデータを受信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
④出力ポート番号		
タイプ	udp	出力ポートのプロトコルタイプを「udp」か「tcp」から選択します。
開始～終了	51200～51201	パソコンがデータを送信する際に使用するポート番号の範囲を入力します。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。

・入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ {¦}˜ です。
・アプリケーションのポートなどの設定については、アプリケーションの開発元にお問い合わせください。
・スペシャルアプリケーションを使用できるパソコンは、それぞれ１台のみです。

3　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

■バーチャル サーバ

インターネット（WAN側）から本商品のLAN上のパソコンにアクセスできるようにします。外部にサーバを公開できます。

1　メニューから［Advanced］－「バーチャル サーバ」をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	バーチャルサーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチPPPoE接続の場合のみ表示されます。
②サーバ	Web	利用したいサーバを選択します。
③［初期値に戻す］	－	選択したバーチャルサーバの設定を初期設定に戻します。
④［すべて無効にする］	－	一覧に表示されているすべてのバーチャルサーバを無効にします。
⑤有効にする	Web	選択したバーチャルサーバにチェックを付けて名称を任意で入力します。[追加]（⑪）をクリックすると新しくサーバを追加します。[更新]（⑫）をクリックすると、内容が変更されます。 ※工場出荷時は無効になっています（チェックは付いていません）。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 16 文字までです。
⑥接続先	－	バーチャルサーバにするパソコンを選択します。利用したいパソコンがリストにない場合は、「PC データベース」（P.70）で登録してください。
⑦プロトコル	TCP	開放するプロトコルのタイプを「UDP」「TCP」「TCP/UDP」から選択します。
⑧入力 / 出力 ポート番号	80/80	インターネット側からサーバに接続するためのポート番号（入力ポート番号）とサーバソフトが使用するポート番号（出力ポート番号）を入力します。通常は同一のポート番号になります。 ※ポート番号には1～65534の半角数字を入力してください。
⑨［クリア］	－	「プロパティ」（⑤～⑧）に入力した内容をクリアします。

項目名	入力例	説明
⑩［削除］	－	選択したバーチャルサーバを削除します。
⑪［更新］	－	選択したバーチャルサーバの設定内容を更新します。
⑫［追加］	－	設定したバーチャルサーバをサーバ一覧（②）に追加します。 ※登録済みのほかのサーバ名から名称を変更する必要があります。

・入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ˜ です。
・登録できるサーバ数は 40 です。

■ダイナミック DNS（DDNS）

インターネット上から IP アドレスではなく URL を指定して LAN 内のバーチャル サーバに接続できるようにします。ダイナミック IP アドレスのような IP アドレスが固定されないサービスでも、LAN 内のバーチャルサーバにアクセスできるようになります。ダイナミック DNS は、次の手順で設定します。

1　無料サービスを提供しているダイナミックDNSサイトで登録手続きをします。本商品から登録することができます。登録が完了すると、ユーザ登録確認メールが、E メールで送られてきます。

2　メニューから［Advanced］－「ダイナミックDNS」をクリックし、登録したダイナミックDNSサービスのユーザ名とパスワード、使用したいドメイン名を入力して［保存］をクリックします。

※マルチPPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	ダイナミック DNS 機能を利用してバーチャルサーバを公開するためのアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②ダイナミック DNS 登録サイト	－	3つのダイナミックDNSサービスから、登録するサービスを選択します（これ以外のサービスはご利用いただけません）。
③ DDNS サービス	－	②で登録したダイナミック DNS サービスを選択します。
④ユーザ名	corega	②で登録したユーザ名を入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字、記号で24文字までです。
⑤パスワード	Password02	②で登録したパスワードを入力します。 ※入力できる文字は、半角の英数字記号で 15 文字です。入力したパスワードは画面上では「●」または「＊」で表示されます。入力ミスのないようにご注意ください。

項目名	入力例	説明
⑥ドメイン名	corega	②で登録した希望のドメイン名を入力します。 ※ダイナミック DNS サイトで登録したアカウントや取得したドメイン名の管理については、各ダイナミック DNS サイトにお問い合わせしてください。 ※使用できる文字は、半角英数字、記号で、左側の入力欄は24文字以内、中央の入力欄は16文字以内、右側の入力欄は４文字以内で入力してください。
⑦ DDNS ステータス	－	②で登録したダイナミック DNS サービスのダイナミック DNS サーバからのメッセージを表示します。

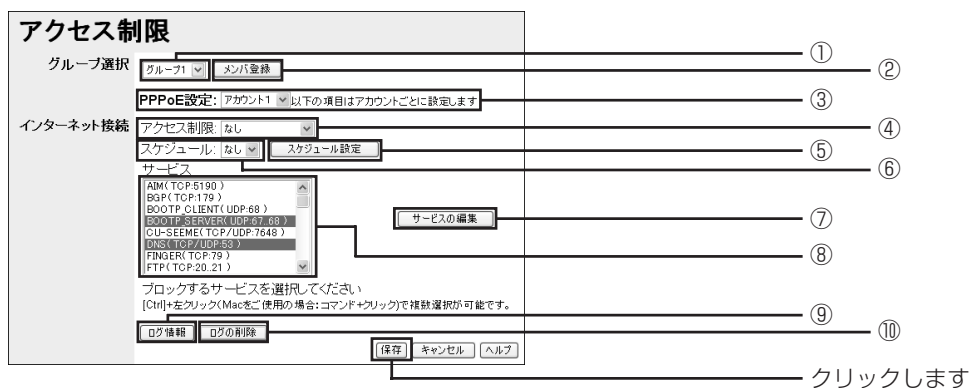
入力できる半角英数字記号は0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ {¦}˜ です。

3　設定を保存すると、本商品はその時点で使用しているIP アドレスを自動的にダイナミック DNS サイトに記録します。「DDNS ステータス」欄で、希望のドメイン名が取得できたかどうか、確認してください。設定したダイナミック DNS を使用してバーチャルサーバなどへの接続ができます。

ダイナミック DNS サイトへの登録は、お客様の自己責任で登録してください。弊社では一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

■アクセス制限

ローカル（LAN）側に接続されているパソコンからインターネット（WAN）側へのアクセスを制御します。
アクセス制限は、グループごとに設定できます。

1　メニューから［Advanced］－「アクセス制限」をクリックします。

※PPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	入力例	説明
①グループ選択	グループ０	アクセス制限をするグループを選択します。 ※工場出荷時は「グループ０」になっています。
②メンバ登録	－	グループ０以外のグループのメンバを編集できます（P.65）。
③ PPPoE 設定	アカウント１	インターネット側（WAN側）へアクセスするアカウントを選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
④アクセス制限	なし	アクセスを制限するかどうかを選択します。 ・「なし」：アクセスは制限されません。 ・「全てのサービス」：全てのサービスがアクセス制限されます。 ・「選択したサービス」：「サービス」で選択したサービスのみ、アクセス制限されます。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑤［スケジュール設定］	－	スケジュール内容を設定したいときにクリックします。曜日ごとにアクセス制限をする時間帯を設定できます（P.66）。
⑥スケジュール	なし	アクセス制限するスケジュールを選択します。「なし」を選択すると常にアクセス制限が有効になります。 ※工場出荷時は「なし」になっています。
⑦［サービスの編集］	－	アクセス制限するサービスを設定したいときにクリックします。サービスの追加や削除ができます（P.67）。
⑧サービス	－	アクセス制限をしたいサービスを選択します。
⑨［ログ情報］	－	アクセス制限ログの情報を確認したいときにクリックします。
⑩［ログの削除］	－	アクセス制限ログの情報を削除したいときにクリックします。

2　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

・「メンバ登録」画面

アクセス制限をするグループを作成します。

1　メニューから［Advanced］－「メンバ登録」をクリックします。

2　「メンバ登録」画面で「グループ選択」のメニューから「グループ０（デフォルト グループ）」以外のグループを選択し、［<< 追加］をクリックします。

項目名	説明
①新グループ	選択したグループのメンバを表示します。新しくグループを作成したときは、空欄になっています。
②［削除 >>］	選択したメンバを新グループから削除します。
③グループ０	デフォルトメンバを表示します。本商品に接続されているすべてのパソコンが表示されます。
④［<< 追加］	選択したメンバを新グループに追加します。

3　設定を変更したら［終了］をクリックし、設定を反映します。

- **グループ 0 に表示されているパソコンは、本商品が認識しているパソコンの一覧です。新グループに追加しても、一覧から削除されません。また、1 つのパソコンを異なるグループ（グループ 0 を除く）に重複して登録できません。**
- **登録できるパソコンは最大 50 台です。**

・「スケジュール設定」画面

アクセス制限をするスケジュールを設定します。スケジュールは、曜日単位で設定できます。

1 メニューから［Advanced］－「アクセス制限」をクリックします。

2 「アクセス制限」画面で［スケジュール設定］をクリックします。

項目名	説明
曜日	曜日ごとにスケジュールを設定します。
スケジュール１／２	スケジュール2を使用しない場合は、空白で設定してください。
開始	24 時間表記で開始時間を入力してください。
終了	24 時間表記で終了時間を入力してください。

例では次のとおりアクセス制限を設定しています。
・月曜日　深夜 0:00 ～早朝 6:00、日中 12:00 ～ 13:00
・日曜日　終日

3 上記項目を設定後、［保存］をクリックすると設定が反映されます。

・「サービス」画面

アクセス制限するサービスを追加・削除します。

1　メニューから［Advanced］－「アクセス制限」をクリックします。

2　「アクセス制限」画面で［サービスの編集］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①登録済みサービス	－	登録済みのサービスの一覧を表示します。一覧からサービスを削除するには、サービス名を選択し、［削除］をクリックすると削除できます。
②サービス名	http	追加登録するサービス名を入力します。 ※入力できる文字は、半角英数字記号で 12 文字までです。 ※①の画面で表示される際は、サービス名の先頭に「*」が付きます。
③タイプ	TCP	追加登録するサービスのプロトコルを選択します。
④開始ポート番号 / 終了ポート番号	80/80	サービスが使用するポート番号の開始～終了を入力します。
⑤ ICMP タイプ	－	③で「ICMP」を選択した場合に入力します。

・入力できる半角英数字記号は0～9、a～z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~ です。

・アクセス制限したいサービスの使用するポートがひとつだけの場合は、「開始ポート番号」と「終了ポート番号」に同じポート番号を入力します。入力例の場合、HTTP は 80 番ポートなので、開始ポート番号に「80」、終了ポート番号に「80」と入力します。

・登録済みのサービス数は 40 です。追加できるサービスの数は 30 です。

3　各設定項目を入力後、［追加］をクリックすると、「登録済みサービス」にサービスが追加されます。

■セキュリティ
本商品のセキュリティ機能を設定します。

1 メニューから［Advanced］－「セキュリティ」をクリックします。

※PPPoE設定をしている場合の画面です。

項目名	説明
① PPPoE 設定	セキュリティ機能を設定するアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
② DoS（Denial of Service）ファイアウォールを使用する	有効にすると、DoS（Denial of Service）攻撃への防御ができます。 ※工場出荷時は「有効」になっています。通常はこのまま使用することをお勧めします。
③しきい値	使用しているインターネットの帯域を選択します。 ※工場出荷時は「高」になっています。
④ URL フィルタを使用する	有効にすると、指定した URL への接続を制限します。 ※工場出荷時は「有効」になっていますが、「URL フィルタの設定」には何も登録されていないため、URLのフィルタリングはされません。
⑤［URL フィルタの設定］	「URL フィルタ」画面が表示されます（P.69）。接続制限をする URL を設定します。
⑥ ICMP に返答する	本商品にpingコマンドが送信された場合に返答するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「無効（返答しない）」になっています。
⑦ IPsec を許可する	IPsec を使用し、VPN（Virtual Private Networking）のパススルーを許可するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（IPsec のパススルーが可能）」になっています。
⑧ PPTP を許可する	PPTP を使用し、VPN（Virtual Private Networking）のパススルーを許可するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（PPTP のパススルーが可能）」になっています。
⑨ L2TP を許可する	L2TP を使用し、VPN（Virtual Private Networking）のパススルーを許可するかどうかを選択します。 ※工場出荷時は「許可する（L2TP のパススルーが可能）」になっています。

2 設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

・「URL フィルタ」画面

1　メニューから［Advanced］ー「セキュリティ」をクリックします。

2　「セキュリティ」画面で［URL フィルタの設定］をクリックします。

項目名	入力例	説明
①フィルタリスト	ー	接続制限をする URL のリストを表示します。
②［全て削除］	ー	フィルタリストに登録されている URL をすべて削除します。
③ URL の追加	violence	接続を制限したいURLを入力し、[追加] をクリックすると、フィルタリストに URL が追加されます。文字列（例：violence）を入力すると、その文字列を含む URL がアクセス制限されます。 ※入力できる文字は、半角英数字記号で 72 文字までです。
④［削除］	ー	選択した URL を削除します。

・入力できる半角英数字記号は 0 〜 9、a 〜 z、 - . @ です。
・登録できる URL の数は 50 件です。
・URL を登録した場合、「http://」は省略されてフィルタリストに表示されます。

3　設定を変更したら［終了］をクリックし、「URL フィルタ」画面を終了します。

■ PC データベース

本商品に接続しているパソコンの一覧を表示します。LAN上のパソコンや固定IPアドレスの情報を管理できます。「DHCP クライアント」のパソコンは、一覧に自動的に追加されます。固定 IP アドレスを使用しているパソコンは手動で追加します。バーチャル サーバやDMZなどを固定IPアドレスのパソコンで設定する際は、かならず PC リストに手動で登録してください。

1　メニューから［Advanced］－「PC データベース」をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PC リスト	－	現在、接続されているパソコンもしくはネットワーク機器を表示します。 ※DHCP クライアントは、自動的に PC リストに表示されます。表示されていない場合は、対象のパソコンを再起動してください。固定IPアドレスを使用しているパソコンは、手動でリストに追加します。 ※パソコンを本商品から外して［再読み込み］をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本商品を再起動するか電源を入れ直してください。
②［<< 追加］	－	パソコン名と IP アドレスを入力したパソコンを PC リストに追加します。
③パソコン名	corega103	PC リストに追加するパソコンのコンピュータ名を入力します（任意の名前）。 ※入力できる文字は半角英数字、記号で 15 文字までです。
④ IP アドレス	192.168.1.14	PC リストに追加するパソコンの IP アドレスを入力します。
⑤［削除］	－	選択したパソコンを PC リストから削除します。
⑥［PC データ一覧］	－	PCデータベースの詳細を表示したいときにクリックします。
⑦［再読み込み］	－	PC リストの表示を更新したいときにクリックします。
⑧［詳細設定］	－	PC データベースを詳細に設定します（P.71）。

メモ　**入力できる半角英数字記号は0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _ { ¦ } ~ です。**

・「PC データベース（詳細設定)」画面

接続されているパソコンのデータの詳細設定ができます。

1　メニューから［Advanced］－「PC データベース」をクリックします。

2　「PC データベース」画面で［詳細設定］をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PC リスト	－	接続されているパソコンの一覧を表示します。 ※パソコンを本商品から外して［再読み込み］をクリックしても、PC リストは更新されません。PC リストを更新する場合は、本商品を再起動するか電源を入れ直してください。
②［削除］	－	PC リストから削除したいパソコンを選択し［削除］をクリックすると PC リストからパソコンが削除されます。
③［修正］	－	PC リストから設定を変更したいパソコンを選択し［修正］をクリックすると PC データにパソコンのデータが表示されます。
④パソコン名	corega103	パソコンのコンピュータ名（任意の名前）を入力します。 ※入力できる文字は半角英数字記号で 15 文字までです。
⑤ IP アドレス		
自動取得（DHCP クライア	－	パソコン側でIPアドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。本商品がパソコンにIPアドレスを自動的に割り当てます。
固定取得（DHCP クライア	固定取得（192.168.1.14）	パソコン側で IP アドレスを自動取得する設定にしている場合に選択します。本商品がパソコンに常に同じ IP アドレスを割り当てます。 ※割り振れるIPアドレスは「LAN」（P.49）で設定している IP アドレスの範囲内になります。
固定設定（DHCP 範囲以外）	－	パソコン側で固定IPアドレスを設定している場合に選択します。

項目名	入力例	説明
⑥ MAC アドレス		
自動検索	ー	パソコンがLANに接続されている場合に、本商品が自動的にパソコンの MAC アドレスを検索する設定にする場合に選択します。
MAC アドレス	ー	パソコンの MAC アドレスを直接設定する場合に選択して、MAC アドレスを入力します。
⑦［PC データ追加］	ー	PC データを入力したパソコンを PC リストに追加します。
⑧［データの削除］	ー	選択したパソコンのデータベースを削除します。
⑨［PC データ更新］	ー	選択したパソコンのデータベースを更新します。
⑩［PC データ一覧］	ー	エントリーできる PC データを一覧表示します。
⑪［再読み込み］	ー	PC データベースの表示を更新します。

- **入力できる半角英数字記号は 0〜9、a〜z、! " # $ % & ' ( ) * + , - . / : ; < = > ? @ [¥] ^ _{¦}˜ です。**
- **「PC データ一覧」に登録できるパソコン数は 50 です。**

■ルーティング

LAN上にほかのルータまたはゲートウェイがある場合は、ルーティングの設定が必要です。通常は、RIPを使用することをお勧めします。

スタティック ルーティングテーブルを使用する際は、ルーティングの機能について理解する必要があります。詳しくは、ネットワーク管理者に確認してください。

1　メニューから［Advanced］－「ルーティング」をクリックします。

項目名	入力例	説明
① RIP V1を使用する	－	本商品でRIPを有効にするかどうかを選択します。本商品ではRIP V1のみをサポートしています。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
②［保存］	－	RIPの設定を保存します（スタティックルーティングテーブルには変更はありません）。
③スタティックルーティングテーブル	－	設定されているスタティックルーティングテーブルの一覧を表示します。
④接続先ネットワーク	0.0.0.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのIPアドレスを入力します。
⑤サブネットマスク	255.255.255.0	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先ネットワークのサブネットマスクを入力します。
⑥ゲートウェイ	192.168.1.1	スタティックルーティングテーブルを設定する際の接続先と通信するために使用するゲートウェイのIPアドレスを入力します。
⑦メトリック	2	接続先ネットワークにデータが届くまでに通過するルータの数です。2～15の間で設定してください。
⑧［クリア］	－	「詳細内容」欄の入力内容をクリアします。
⑨［削除］	－	選択したスタティック ルーティングテーブルを削除します。

項目名	入力例	説明
⑩［更新］	ー	「詳細内容」欄の設定内容でスタティックルーティングテーブルを更新します。
⑪［追加］	ー	「詳細内容」欄の入力内容をスタティックルーティングテーブルに追加します。
⑫［レポート］	ー	設定されているすべてのスタティック ルーティングテーブルのリストを表示します。

・本商品の RIP 機能は、LAN 側のみとなります。
・登録できるルーティングテーブル数は 20 です。

■リモート設定

本商品をインターネット経由で設定できるようにします。

1　メニューから［Advanced］－「リモート設定」をクリックします。

項目名	入力例	説明
① PPPoE 設定	アカウント 1	リモートから設定できるアカウント（接続先）を選択します。マルチ PPPoE 接続の場合のみ表示されます。
②リモート設定を使用する	－	チェックを付けるとインターネット側（WAN側）から本商品の設定を可能にします。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
③ポート番号	8080	インターネット側から本商品にアクセスする際のポート番号を指定します。1 ～ 65534 の範囲でポート番号を入力してください。 ※工場出荷時は「8080」になっています。
④本製品に接続するための IP アドレス	－	インターネット側（WAN 側）から本商品の設定をする際に指定する IP アドレス（プロバイダによって割り当てられたもの）が表示されます。 ※本商品に接続するためのIPアドレスは、本商品の WAN 側 IP アドレスになります。

メモ　**インターネット側（WAN 側）から接続する際は、「http:// 本商品に接続するための IP アドレス: ポート番号」のように IP アドレスの後ろにポート番号を指定します。**

2　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

- **ダイナミックIPアドレスを使用している場合、本商品に接続するためのIPアドレスが常に変わってしまいます。接続する前に、本商品の WAN 側 IP アドレスを確認してください。**
- **「リモート設定を使用する」を有効に設定した場合、第三者からの不正アクセスやインターネット上への情報の漏洩などが考えられます。リモート設定を使用していないときは、「無効」に設定することをお勧めします。**

■ツール
Pingテストやドメイン検索ができます。IPアドレスやドメインを指定し、Pingを送信し、正常にネットワークが接続されているかを確認できます。

項目名	入力例	説明
① Ping IP アドレス	192.168.1.20	接続しているかどうか確認したいパソコンのIP アドレスを入力します。［実行］をクリックするとテストを開始し、結果が下の「Ping 結果」欄に表示されます。
②ドメイン名 / URL	myhome abcd.co.jp	接続しているかどうか確認したいドメイン名またはURLを入力します。［検索］をクリックすると、結果が下の「DNS 検索 結果」欄に表示されます。

■その他各種設定

1　メニューから［Advanced］－「その他各種設定」をクリックします。

項目名	入力例	説明
①時間設定	－	本商品の内蔵時計を設定します。 ・自動設定：NTPサーバに接続し、自動的に時刻を設定します。 ・手動設定：手動で設定するときに選択します。
②ダイレクトPPPoEを許可する	－	チェックを付けるとダイレクトPPPoEを使用できます。
③IPv6ブリッジを有効にする	－	チェックを付けるとIPv6ブリッジを使用できます。
④UPnPを有効にする	－	UPnP（Universal Plug and Play）機能によって自動的にLANに接続された装置を検出し認識します。UPnP機能は、Windows XPおよびWindows Vistaで使用できます。 ※マルチPPPoE接続時は表示されません。
⑤UPnPを使って本商品の設定を変更する	－	チェックを付けると、UPnP機能を使用して、本商品の設定を変更できます。チェックを外すと、UPnP機能を使用した本商品の設定変更はできなくなります。 ※マルチPPPoE接続時は表示されません。
⑥WANの切断機能を有効にする	－	チェックを付けるとUPnP機能を使用してWAN（インターネット）を切断できます。 ※工場出荷時は「無効」になっています。
⑦MTUを変更する	1454	MTUの値を変更します。PPPoE接続の場合のみ、設定できます。通常はリモートサーバから自動的に設定されます。プロバイダから指示があったときのみ変更してください。1～1492の間で設定してください。フレッツ・ADSLに接続した場合には、自動的に「1454」に設定されます。 ※工場出荷時の設定値は「1454」です。
⑧Jumbo Frame	1518	チェックを付けるとJumbo Frameのパケットサイズを変更できます。「1024」～「9216」の間で変更してください。 ※工場出荷時の設定値は「1518」です。

項目名	入力例	説明
⑨バックアップDNS	12.34.56.99	DNS（ドメインネーム サーバ）のIPアドレスを入力します。優先DNSサーバが利用できない場合に、ここで入力したDNSサーバが使用されます。プロバイダに指定された場合に入力してください。指定されない場合は空欄にしてください。

2　設定を変更したら［保存］をクリックし、設定を反映します。

マルチ PPPoE 接続時は、次の画面のように表示されます。

項目名	説明
①アプリケーションで WAN IP を選択する	本商品の機能を使用して、WAN 側 IP を選択します。
② WAN 側 IP のセッションを選択する	ラジオボタンで選択したセッションを使用します。

・そのほかの項目は前ページと同じです。
・マルチPPPoE接続時は、「UPnPを使用する」以降の設定項目をアカウントごとに設定することができます。

PART 4

こんなときにはこの設定

このPARTでは、本商品をより便利に活用していただくための設定方法について説明します。

ネットワークゲームをするには

ネットワークゲームをするには、ゲームサーバとデータの送受信をするポートを、UPnP設定やスペシャルアプリケーション設定などで本商品に設定する必要があります。

お使いの回線やプロバイダ（ISP）によっては、ネットワークゲームに対応していない場合があります。

●UPnPに対応したネットワークゲームの場合

本商品はUPnPに対応しているので、UPnPに対応したネットワークゲームであれば、自動的に本商品の設定が行われます。設定画面で次の設定を行います。

1　設定をするアカウントを選択し、［Advanced］－「その他各種設定」（P.77）で、「UPnPを有効する」をチェックします。

- **Windowsにて、ユニバーサル プラグ アンド プレイ（UPnP）に関するセキュリティの脆弱性が発見されています。ご利用になる前に、Windowsの修正プログラムをインストールしてください。詳細な設定方法は、Microsoftにお問い合わせください。**
- **UPnPがサポートされているOSは、Windows Vista／XPのみです。**

●UPnPに対応していないネットワークゲームの場合

UPnP に対応していないネットワークゲームの場合は、次のいずれかの方法で設定します。

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分かる場合
使用するポート番号、タイプが分かっている場合は、次の手順で設定します。

［Advanced］－「バーチャル サーバ」（P.60）で、ネットワークゲームが使用するポート番号とタイプ（プロトコルのタイプ）を設定します。詳細は「PART3 設定画面を見てみよう」の「バーチャル サーバ」（P.60）をご覧ください。

1　「Advanced」－「バーチャル サーバ」をクリックします。

2　「プロパティ」の「有効にする」にチェックを付けます。

3　右側の欄に任意のサーバ名を入力します。

4　接続先のパソコンを選択します。

5　プロトコル、ポート番号を使用するサーバに合わせて入力します。

6　［追加］をクリックします。

7　「サーバ」の画面内に手順 2 で入力したサーバ名があることを確認してください。

メモ　**ネットワークゲームが使用するポート番号、タイプ（プロトコルのタイプ）については、各ゲームの製造元にお問い合わせください。**

■ネットワークゲームが使用するポート番号が分からない、または毎回変更される場合
DMZ 機能を使います。設定画面で次の手順で設定します。

1　［Advanced］－「アドバンスド インターネット」（P.58）をクリックします。

2　「DMZ を使用する」にチェックを付けます。

3　ネットワークアプリケーションを使用するパソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

DMZ 機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ 機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。

音声／ビデオチャットなどのツールを使うには

ここでは、代表的なソフトとして、NetMeeting 、Windows Messenger、MSN Messengerを利用する場合の設定を説明しています。本商品は、NetMeeting、Windows Messengerr（Ver4.7以降）、MSN Messenger（Ver.6.1以降）に対応しています。各アプリケーションの使い方は、ヘルプやホームページをご覧ください。

●NetMeeting

1　設定画面の［Advanced］－「アドバンスド インターネット」をクリックします。

2　「登録済みアプリケーション」の「使用アプリケーション」で「H323(CUsee ME&MS NetMeeting」を選択します。

3　NetMeeting使用するパソコンを選択します。

4　［保存］をクリックします。

上記の設定をしても接続できない場合はDMZ機能を使います。［Advanced］－「アドバンスド インターネット」（P.58）で「DMZを使用する」にチェックを付け、NetMeetingを使用するパソコンを選択してください。

・DMZ機能の対象となっているパソコンは、本商品のファイアウォール機能が無効になるため、セキュリティが弱くなります。DMZ機能は、必要な場合のみ有効にしてご使用ください。
・Net Meetingは1台のパソコンでのみ使用できます。

●Windows Messenger（Ver4.7以降）／MSN Messenger（Ver.6.1以降）

本商品はUPnPに対応しているので、Windows MessengerおよびMSN Messengerを利用する際は、自動的に本商品は設定されます。

1　設定画面の［Advanced］－「その他各種設定」をクリックします。

2　「UPnPを有効にする」にチェックを付けます。

・MSN MessengerはVer. 6.1で動作確認しております。
・対応OSはWindows XP Service Pack1（SP1）以降のみです。

3　［保存］をクリックします。

詳細は「その他各種設定」（P.77）をご覧ください。

外部にサーバを公開するには

●バーチャルサーバを使用する

バーチャルサーバ機能を利用して外部にサーバを公開する設定例です。

1 ［Advanced］－「バーチャル サーバ」をクリックします。

2 利用するサーバを選択し、［更新］をクリックします。

メモ **「入力ポート番号」および「出力ポート番号」は、「プロトコル」で「ユーザ定義」を選択した場合に、任意の数値を入力します。**

サーバ名が表示される画面内に利用したいサーバがない場合は、次のようにしてサーバを追加します。

1 ［Advanced］－「バーチャル サーバ」をクリックします。

2 「プロパティ」の「有効にする」にチェックを付けます。

3 右側の欄に、任意のサーバ名を入力します。

4 サーバとなるパソコンを選択します。

5 プロトコルやポート番号を、使用するサーバに合わせて入力します。

6 ［追加］をクリックします。

7 「サーバ」の画面内にある、手順３で入力したサーバ名を選択してください。

詳細は「PART3 設定画面を見てみよう」の「バーチャル サーバ」（P.60）をご覧ください。

●ダイナミックDNSを使用してURLでアクセスする

インターネット側からドメインネーム（URL）を使用して、バーチャルサーバなどに接続できる設定例です。

1 ［Advanced］－「ダイナミック DNS」をクリックします。

2 ここでは DynDNS を例としますので、「http://www.dyndns.org」をクリックします。このときに取得した「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」を控えておいてください。

3 本商品の「ダイナミック DNS」画面に戻り、手順２で取得した「ログイン名」、「ログインパスワード」、「ドメイン名」を入力し、［保存］をクリックします。

4 本商品を再起動します。再起動の方法は、「本商品を再起動する」（P.102）をご覧ください。

詳細は「PART3 設定画面を見てみよう」の「ダイナミック DNS」（P.62）をご覧ください。

マルチPPPoEで2つの接続先を使い分けるには

（プロバイダと、フレッツ・スクウェアを利用する）
※フレッツ・グループアクセス／フレッツ・グループをご利用の場合は、「端末型払い出し」のみご利用できます。ダイレクト PPPoE をご利用ください。マルチ PPPoE での接続はできません。

●プロバイダとフレッツ・スクウェアに接続する

通常はプロバイダに接続しますが、「flets」のドメイン名が含まれたURLが入力されたときに「フレッツ・スクウェア」に自動的に接続できます。「フレッツ・スクウェア」を利用するには、「セッション２」に設定することで使用できます。

例：通常のプロバイダへの接続設定を「セッション -1 の Account-1」に、「フレッツ・スクウェア」への接続設定を「セッション -2 の Account-2」に設定する場合

1　通常のプロバイダの設定をします。［WAN］をクリックし、「接続タイプ」で「マルチ PPPoE」を選択して、［次へ］をクリックします。

2　「WAN －マルチ PPPoE」の「PPPoE 設定」で、［アカウント 1］をクリックします。

3　「セッション 1」を選択し、プロバイダから通知された「ユーザ名」と「パスワード」を入力し、「オプション」、「DNS」を設定して、［保存］をクリックします。

4　次にフレッツ・スクウェアを設定しますので、「PPPoE 設定」で［アカウント2］をクリックします。

5　「セッション２」を選択し、「ユーザ名」と「パスワード」を次の表の内容で入力します。「DNS」は「自動取得」を選択します。

	NTT 東日本のエリアのお客様	NTT 西日本のエリアのお客様
ユーザ名	guest@flets	flets@flets
パスワード	guest	flets

（2008 年５月現在）

6　「接続先設定」の［ドメイン追加］をクリックし、「接続先設定」画面を表示させます。

7　「ドメイン名」に「.flets/」を入力し、［追加］をクリックしてリストに登録します。

8　リストに登録された「.flets/」が反転表示になっていることを確認し、［保存］をクリックして設定内容を保存します。

9　［閉じる］をクリックし、マルチ PPPoE の設定画面に戻ります。

10［保存］をクリックし、設定内容を有効にします。

詳細は「PART3 設定画面を見てみよう」の「マルチ PPPoE 接続の場合」（P.41）をご覧ください。

複数固定IPサービスを利用するには(Unnumbered利用)

各プロバイダが提供する複数固定IPアドレスサービスを利用することにより、プロバイダから割り当てられた複数のグローバル固定IPアドレスを本商品および本商品に接続されたパソコンにそれぞれ設定して、サーバ公開などができるようになります。

例：本商品の元の設定…IP アドレスが「192.168.1.1」サブネットマスクが「255.255.255.0」

項目名	プロバイダからの情報
IP アドレス	XXX. ○○○ . □□□ .113 ～ XXX. ○○○ . □□□ .120
サブネットマスク	255.255.255. ◆◆◆
DNS サーバ	12.34.56.12

設定するパソコンの IP アドレスを「XXX. ○○○ . □□□ .115」と設定したい場合

1 「WAN 側設定」－「PPPoE」画面から「PPPoE/Unnumbered IP」を選択し、[次へ] をクリックして画面を表示させます。

2 「PPPoE 接続名」、「ユーザ名」、「パスワード」を入力します。

3 IP アドレスは [Unnumbered IP]」のラジオボタンをクリックし、次のように設定します。
- ・ルータ IP →「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します（プロバイダから割り当てられた２番目の IP アドレスが入ります）。
- ・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」と入力します。
- ・DNS サーバ→「12.34.56.12」と入力します。

4 優先 DNS サーバのラジオボタンをクリックして、「12.34.56.12」と入力します。

5 [保存] をクリックします。

6 設定するパソコンの固定 IP アドレスを以下のように変更します。

- ・IP アドレス→「XXX. ○○○ . □□□ .115」（設定したい IP アドレス）
- ・サブネットマスク→「255.255.255. ◆◆◆」
- ・デフォルトゲートウェイ→「XXX. ○○○ . □□□ .114」（ルータ IP と同じで可）

メモ **TCP/IP の変更方法については、本書の「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワークを設定しよう」（P.7 ～）をご覧いただくか、各 OS の取扱説明書をご覧ください。**

7 本商品の設定画面に再度アクセスする場合は、Internet Explorerのアドレス欄に入力するIPアドレスを「WAN 側設定」で設定した「XXX. ○○○ . □□□ .114」と入力します。

詳しくは「PART3 設定画面を見てみよう」の「Unnumbered IPで接続する場合」（P.39）をご覧ください。

Unnumbered を利用する場合は、LAN（パソコン側）に固定 IP アドレスを設定する必要があります。

社内LANとして使用するには

本商品はSOHOのLAN内のローカルルータとして使用する「LOCAL OFFICE」（P.35）を選択し、ネットワークを分けられます。

●設定の流れ

1　LAN側の設定をする。

2　本商品をローカルオフィスモードにする。

3　本商品の上位にあるルータをスタティックルート設定にする。
※上位にあるルータの設定は、上位ルータの取扱説明書をご覧ください。

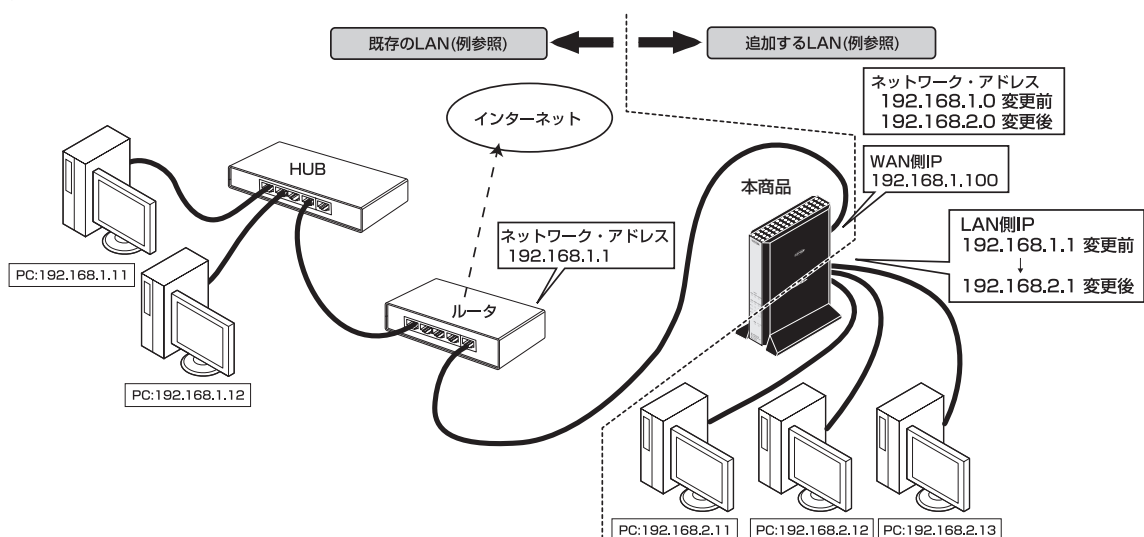
ここでは次のネットワーク環境を例として説明しています。

	ネットワーク・アドレス	サブネットマスク
既存のLAN（ルータのWAN側）	192.168.1.0	255.255.255.0
追加するLAN（ルータのLAN側）	192.168.2.0	255.255.255.0
WAN側IPアドレス	192.168.1.100	－

※値はすべて一例です。実際に入力する値は、ご使用の環境に合わせてください。

●LAN側の設定

上位ルータのネットワークと本商品のLAN側ネットワークが重複する場合にLAN側の設定を変更する必要があります。ここではLAN側IPアドレスの変更方法について説明します。

例：これからつなぐ上位ルータとネットワークが重複するため、「192.168.1.1」を「192.168.2.1」に変更する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。

LAN側の設定をするときは、本商品と上位ネットワークとは接続しないでください。

1　設定画面を開きます。

2　［LAN］をクリックします。

3　次のように設定します。

① LAN 側 IP アドレスは、本商品の LAN 側の IP アドレスを入力します。
例：192.168.2.1（工場出荷時「192.168.1.1」から変更した場合）

② サブネットマスクは本商品の LAN 側ポートに付けるサブネットマスクを入力してください。
例：255.255.255.0

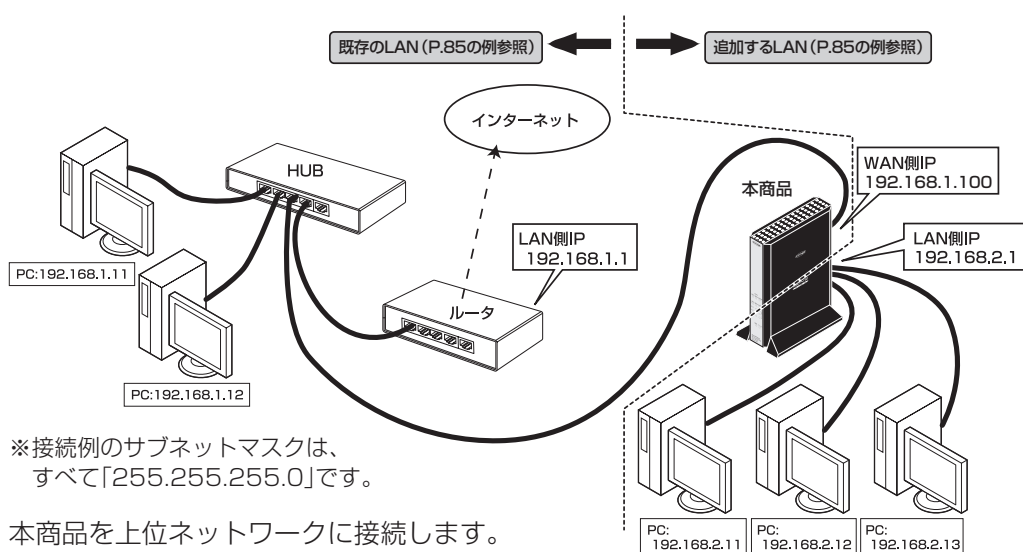
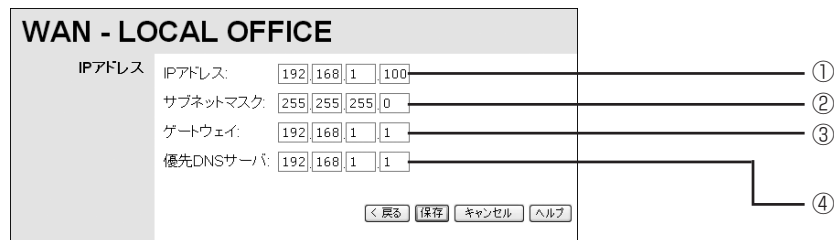
4　［保存］をクリックします。LAN 側の設定が保存されます。

・［保存］をクリックすると、LAN側のIPアドレスが変更され、ユーティリティ設定画面が表示されなくなります。再度ユーティリティ画面を表示させるには、変更したLAN側IPアドレス（例では192.168.2.1）をブラウザのアドレス欄に入力し、［移動］をクリックすると表示されます。表示できない場合は、ルータの電源を入れ直してください。

・パソコンの IP アドレスは自動取得に設定します。

以上で本商品のLAN側IPアドレスの設定ができました。次に「ローカルオフィスモードの設定」に進みます。

●ローカルオフィスモードの設定

本商品が工場出荷状態のままのときは、追加するLANは以下のアドレス構成となり、動作モードはWAN側IP（自動取得）モードになっています。ここでは「WAN側設定」で本商品をローカルオフィスモードに変更して、WAN側IPアドレスを設定する方法で説明します。

1　本商品を上位ネットワークに接続します。

2　本商品に接続しているパソコンを起動します。

3　本商品の設定画面を開きます。

4　［WAN］をクリックします。

5　「LOCAL OFFICE」を選択して、［次へ］をクリックします。

6　次のように設定します。

①本商品のWAN側ポートに付ける「IPアドレス」（例:192.168.1.100）を入力します。

②「サブネットマスク」（例:255.255.255.0）を入力します。

③「ゲートウェイ」（例:192.168.1.1）を入力します。「ゲートウェイ」は、本商品がつながっている上位のルータと同じIPアドレスを入力します。

④「優先DNSサーバ」は、ISPまたは社内にあるDNSサーバのIPアドレスか、プロバイダから指定されたDNSアドレスを入力します。

7　［保存］をクリックします。

8　上位のルータに、本商品に対するスタティックルーティングを設定します。

上位のルータの設定については、各ルータの管理者にご確認ください。

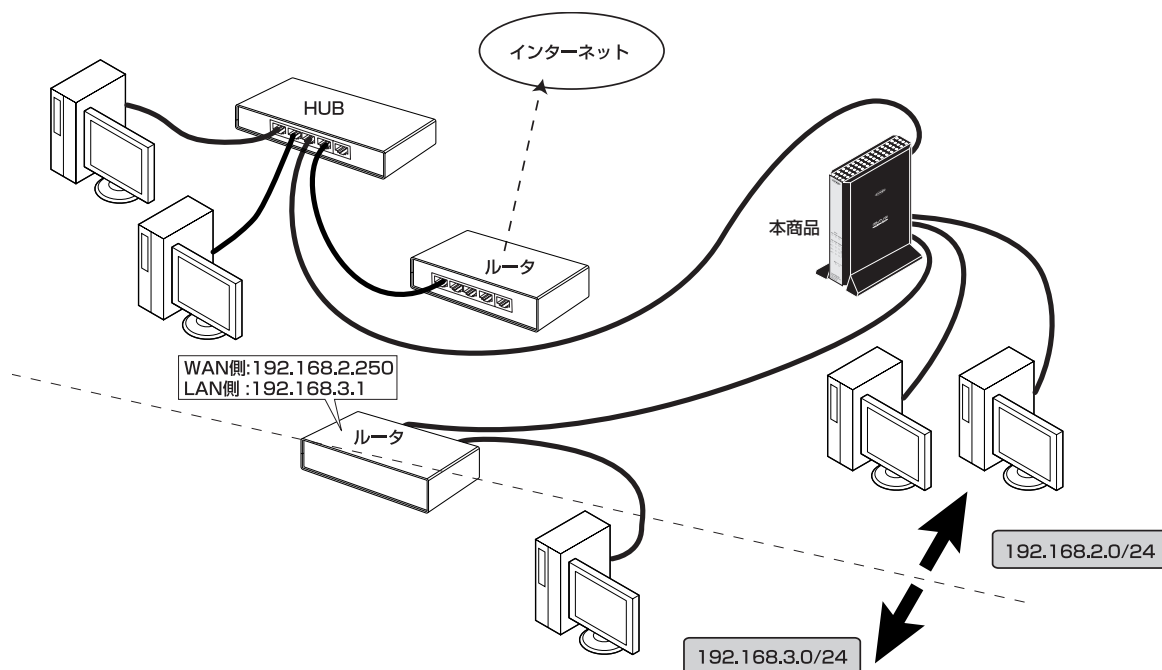
以上でローカルオフィスモードに設定できました。

そのほかのルーティング設定例

ここでは本商品の下位にルータを追加する場合を説明します。

● スタティックルートの設定

隣接するルータがRIPに対応していない場合は、手動で通信経路を指定します。

例：「ネットワーク・アドレス：192.168.3.0、サブネットマスク：255.255.255.0」というネットワークを追加する。

※接続例のサブネットマスクは、すべて「255.255.255.0」です。
※ 192.168.3で始まるIPアドレスへの通信はすべて192.168.2.250に転送

1 ［Advanced］－「ルーティング」をクリックします。

2 次のように設定します。

① ネットワーク・アドレスは、通信の宛先となるネットワークのアドレスを入力してください。
（例：192.168.3.0）

② サブネットマスクは、ネットワーク・アドレス欄に入力したアドレスのどこまでがネットワークアドレスであるかを表す数値です。
（例：255.255.255.0）

③ ゲートウェイは、ネットワーク・アドレス欄とサブネットマスク欄で指定した宛先への経路となるルータのIPアドレスを入力してください。
（例：192.168.2.250）

3 ［追加］をクリックします。「スタティックルーティングテーブル」画面に設定が追加されます。

4 ［更新］をクリックし、設定を反映させます。

● RIPの設定

LAN側に別途ルータが存在する場合は、そのルーティング経路を本商品に設定する必要があります。本商品はダイナミックルーティングプロトコルであるRIP機能に対応していて、隣接するルータとRIPによって、自動的に経路の情報を交換できます。

- 隣接するルータがRIPに対応していないときは、手動でルート設定をする必要があります。設定方法については「スタティックルートの設定」(P.88)をご覧ください。
- 本商品のRIP機能はLAN側のみに設定できます。

1　[Advanced] –「ルーティング」をクリックします。

2　次のように設定します。

3　[更新] をクリックします。

本商品のルータ機能を使わないで、モデム内蔵のルータ機能を使いたい

本商品のルータ機能は使わないで、モデムに内蔵のルータ機能を引き続き使う場合は、次の手順で本商品を４ポートのギガスイッチングハブとして使用できます。

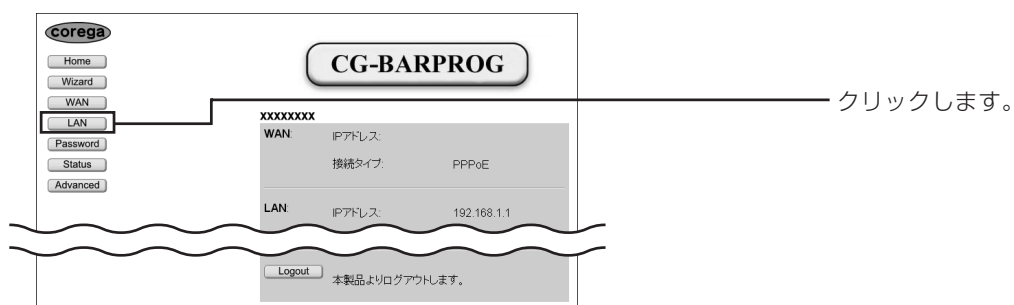
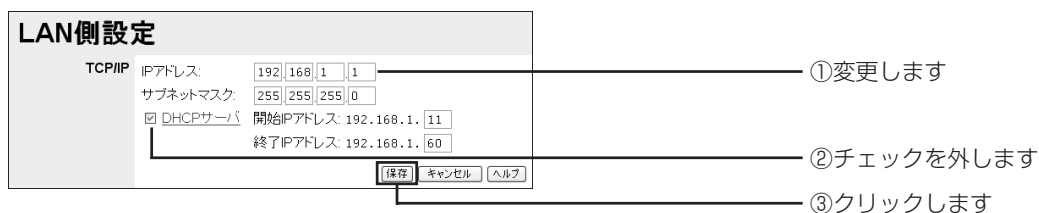
お使いのモデムの設定につきましてはモデムのサポート先にお問い合わせください。

1　本商品を工場出荷時の状態に戻します。

詳しくは、「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧ください。

2　本商品とパソコンを接続します。

3　本商品の設定画面を表示します。

4　設定画面左側のメニューで［LAN］をクリックします。

5　本商品のIPアドレスを、ご利用環境に合わせて「192.168.1.1」から変更します。「DHCPサーバ」のチェックを外し、［保存］をクリックします。メッセージウィンドウが表示されますので、［OK］をクリックします。

モデムやパソコンのIPアドレスを確認して、それらと重複しないアドレスにしてください。

6　Internet Explorerを終了し、本商品の電源を切ります。

以上で、本商品の設定は完了です。
本商品の「LAN1～4」の４ポートをスイッチングハブとして使用できます。WANポートは使用できません。

- **本商品の設定画面を表示する場合は、手順5で変更した「IPアドレス」をInternet Explorerで表示します。**
- **本商品の設定を元に戻す場合は、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。**

PART 5

トラブルや疑問があったら

本商品を使っていて「困ったな」「うまく動かない…」と思ったとき、疑問があったときは、このPARTで解決方法を探してください。

解決のステップ

1. 取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する

それでも解決しないときは…

2. このPARTのQ&Aを確認する

【トラブルは？】

●インターネットに接続できない

①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？
②電源は入っていますか？
③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？
④ケーブル（モデム⇔本商品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？
⑤そのほかの接続は大丈夫ですか？
⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？
⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？
⑧プロバイダからの入力事項を正しく設定しましたか？
⑨Webブラウザの設定は正しいですか？

●パソコン同士がつながらない

・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

●本商品の設定画面が起動しない
●本商品の設定画面にログインできない
●ファームウェアのアップデートに失敗した

【疑問は？】

●パソコンのIPアドレスを調べたい
●本商品のパスワードを変更したい
●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい
●本商品の設定のバックアップを取る。元に戻す
●本商品を再起動する
●本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す

それでも解決しないときは…

3. コレガのホームページの情報を活用する

それでも解決しないときは…

4. それでも解決しなければ、サポート窓口に問い合わせてみる

取扱説明書や契約書を再確認する／管理者に確認する

本書以外にもプロバイダ契約時の設定取扱説明書、モデムの取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書をお手元にご用意ください。ネットワークにつながらない原因は複雑なため、本商品の設定が正しくても、ほかの設定が間違っていたり、外部の装置の問題で正しく接続できないこともあります。このPARTの「インターネットに接続できない」の項目をすべて確認しても接続できない場合は、プロバイダ、パソコンのメーカなどに問い合わせてみてください。なお、企業でお使いの方はネットワークの設定がオフィスによって決められていることがあります。接続できない場合はネットワーク管理部門や部内のネットワーク管理者などに確認してください。

Q&A

●インターネットに接続できない

次の項目について、順番に確認してチェックを付けてください。

①プロバイダとの契約や回線工事は完了していますか？

B フレッツまたはフレッツ・ADSL ＋対応プロバイダなどの場合

□回線適合調査でサービス可能と認定され、工事は完了したか

□ B フレッツまたはフレッツ・ADSL に対応したプロバイダの工事は完了したか

②電源は入っていますか？

各接続機器の電源LEDがついているか、またはACアダプタなどが外れていないかを確認してください。

□ ADSL モデムまたは回線終端装置などに電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）

□本商品に電源が入っているか（AC アダプタが外れていないか）

③モデム⇔インターネット側への回線は正しく接続されていますか？

□モデム（ADSL モデム、回線終端装置）とケーブル（電話回線用モジュラケーブル、同軸ケーブル、光ケーブル）が正しく接続されているか

詳しい接続については、モデムや回線終端装置に付属の取扱説明書をお読みください。

④ケーブル（モデム⇔本商品⇔パソコン）は正しく接続されていますか？

□本商品と ADSL モデムまたは回線終端装置は LAN ケーブルで正しく接続されているか

本商品とモデムが正常に接続されているとWAN LED が点灯します。点灯していない場合は、ケーブルを差し直すなどしてみてください。

□本商品とパソコンは LAN ケーブルで正しく接続されているか

パソコンと本商品が正常に接続されている場合は、パソコンに電源が入っていると本商品の前面にある各 LAN ポートの通信状態 LED が点灯します。パソコンに LAN ボードまたは LAN カードがきちんと挿入されているか、LANポートに正しくケーブルが接続されているかも再度確認してください。

⑤その他の接続は大丈夫ですか？

フレッツ・ADSL の場合

□スプリッタの出力ポートの接続は正しいか（電話用と ADSL モデム用があります）

ADSL モデム、スプリッタの取扱説明書をご覧になり確認してください。

⑥パソコンのネットワークアダプタは正しく動作していますか？

□パソコンのネットワークアダプタのドライバの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワークを設定しよう」（P.7）をご覧になり、パソコンのネットワークアダプタが正常に動作していることを再度確認してください。

⑦パソコンのネットワーク設定は正しく設定しましたか？

□パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワークを設定しよう」（P.7）をご覧になり、パソコンの TCP/IP が正しく設定されていることを再度確認してください。

□割り当てられた固定 IP アドレスなどが設定されているか

プロバイダから複数の固定IPアドレスを割り当てられている場合は、次の手順でそれぞれのパソコンのネットワークを設定してください。

・Windows Vista の場合（P.7）
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順８「インターネットプロトコル バージョン４（TCP/IP４）のプロパティ」画面で、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」を設定してください。

・Windows XP の場合（P.12）
「TCP/IPプロトコルを確認する」の手順7「インターネットプロトコル（TCP/IP）のプロパティ」画面で、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows 2000 の場合（P.15）
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順５「TCP/IPのプロパティ」画面で、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

・Windows Me ／ 98SE の場合（P.19）
「TCP/IP プロトコルを確認する」の手順５「TCP/IPのプロパティ」画面で、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」を設定してください。

⑧プロバイダからの設定事項を正しく入力しましたか？

□契約時の設定事項を本商品およびパソコンに正しく入力したか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「本商品を設定しよう」（P.26）で設定する、プロバイダからの設定事項をすべて設定画面に正しく入力しないとインターネットには接続できません。パスワードは入力を間違っても画面上で確かめることができませんので、再度入力をやり直してみてください。大文字／小文字が区別される場合もありますので注意してください。

⑨ Web ブラウザの設定は正しいですか？

□ Web ブラウザの設定項目は正しいか

Web ブラウザの設定についてはプロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。

Windows 98SEをお使いの場合、はじめてインターネットに接続すると、インターネット接続ウィザードが表示されます。その場合、次の手順で設定してください。

1 「インターネット接続を手動で設定するか、ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

2 「ローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」をクリックし、［次へ］をクリックします。

3 「プロキシーサーバーの自動検出」のチェックボックスをクリックしてチェックを外します。

4 「インターネットメールアカウントの設定」画面で「いいえ」をクリックし、［次へ］をクリックします。

5 「完了」をクリックします。

パソコンをダイヤルアップ環境で利用されていた場合は、お使いのOSによってはWebブラウザの設定を変更する必要があります。プロバイダ契約時の取扱説明書、パソコンに付属の取扱説明書や OS のヘルプなどをご覧ください。

●パソコン同士がつながらない

・ファイルやプリンタが利用できるようにネットワーク設定をしましたか？

□パソコンのネットワーク共有サービスを設定する

本商品のLANポートに接続されたパソコン同士がデータのやり取りをするには、共有ネットワークの設定が必要です。複数台のパソコンでデータのやり取りをする場合、Windows では Microsoft ネットワーク共有サービスを使ったワークグループ接続（ピアツーピア接続）が一般的です。設定方法については、各 OS のヘルプをご覧ください。

●本商品の設定画面が起動しない

・パソコンのネットワーク設定は正しくできていますか？

□パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「パソコンのネットワークを設定しよう」（P.7）をご覧になり、パソコンの TCP/IP が正しく設定されているか再度確認してください。

・プロキシサーバを使う設定になっていませんか？

□ Internet Explorer のプロキシサーバの設定は正しいか

「PART2 ネットワークに接続しよう」の「Internet Explorerの設定をしよう」（P.23）をご覧になり、Internet Explorer でプロキシサーバを使用しない設定にしてください。

・すでにフレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続している場合は

これまでパソコンに ADSL モデムなどを直接接続して、フレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続していた場合は、次の点を確認してみてください。

□ Windows XP で、PPPoE 接続の設定がされていませんか？

Windows XP の「コントロールパネル」－「ネットワーク接続」で、「広帯域」の接続が作成されていると、ルータの設定ができません。「広帯域」の接続を削除してください。

□「フレッツ接続ツール」を使用していませんか？

NTT より配布されている「フレッツ接続ツール」を使用して、フレッツ・ADSL ／ B フレッツに接続するように設定されていると、ルータの設定ができません。「フレッツ接続ツール」を削除してください。

●本商品の設定画面にログインできない

・別のパソコンがログインしていませんか？

別のパソコンがログインしていないか確認してください。別のパソコンがログアウトしたら、もう一度ログインしなおしてください。

・パスワードを忘れた

本商品を工場出荷時の状態に戻してください。パスワードがクリアされます。本商品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPART の「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧ください。パスワードを設定したい場合は、このPARTの「本商品のログイン名／パスワードを変更したい」（P.98）をご覧になり、再設定してください。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。

●ファームウェアのアップデートに失敗した

本商品を工場出荷時の状態に戻してから、再度、ファームウェアをアップデートをしてください。本商品を工場出荷時の状態に戻す方法は、このPARTの「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧ください。

本商品を工場出荷時の状態に戻すと、今まで設定していた情報がすべて消えてしまいますので、再設定する必要があります。

●パソコンのIPアドレスを調べたい

パソコンのIPアドレスを調べるには、次の方法で行ってください。Windows以外のOSについては、OSのヘルプや取扱説明書をご覧ください。

■ Windows XP／2000の場合

1　「スタート」－「すべてのプログラム」（Windows 2000の場合は「プログラム」）－「アクセサリ」－「コマンドプロンプト」をクリックします。

2　キーボードから「ipconfig」と入力して、「Enter」キーを押します。パソコンのIPアドレスが表示されます。

3　IPアドレスを確認します。

■ Windows Me／98SEの場合

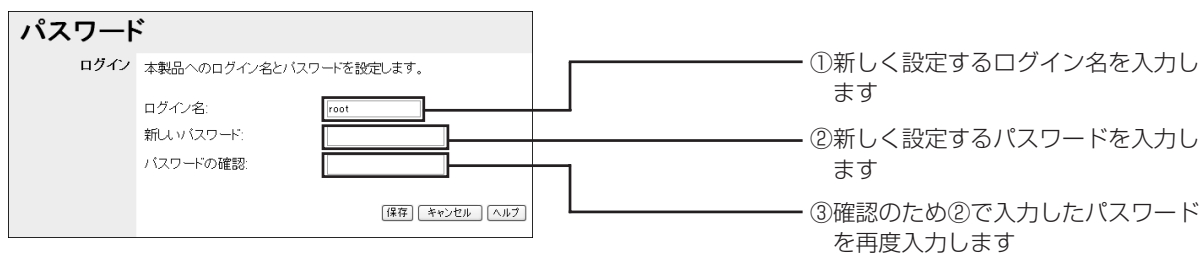
1　「スタート」－「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

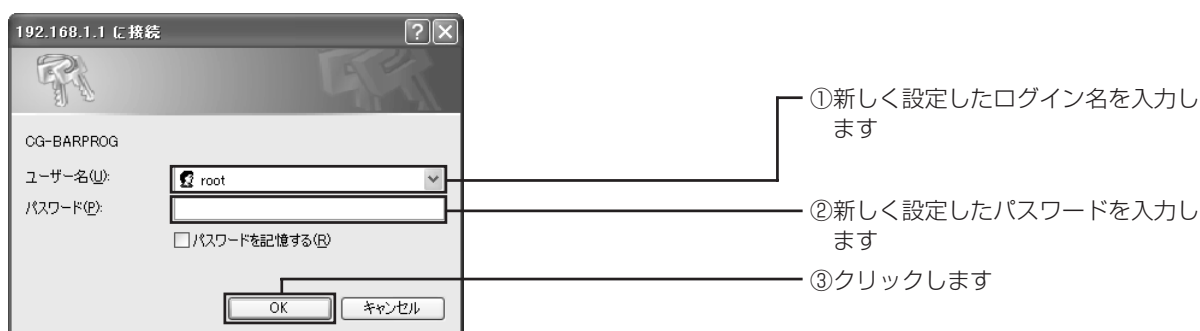
2　「名前」の欄に「winipcfg」と入力して、［OK］をクリックします。

3　パソコンで使用しているネットワークアダプタを選択すると、パソコンのIPアドレスが表示されます。正しく表示されない場合は、［解放］をクリックした後、［すべて書き換え］をクリックしてください。

●本商品のログイン名／パスワードを変更したい

本商品のログイン名／パスワードは、次の手順で変更できます。

1　設定画面を起動し、「システム設定」画面を表示させて次の画面のように設定します。

2　［保存］をクリックします。

3　次回から設定画面にアクセスするときは、手順1で設定した「ログイン名」でで入力した文字列を「ユーザ名」に、「新しいパスワード」で入力した文字列を「パスワード」にそれぞれ入力し、［OK］をクリックします。

●最新のファームウェアを入手してアップデートしたい

本商品の機能強化のため、予告なくファームウェアをバージョンアップすることがあります。最新のファームウェアはコレガのホームページ（http://corega.jp/）から入手してください。

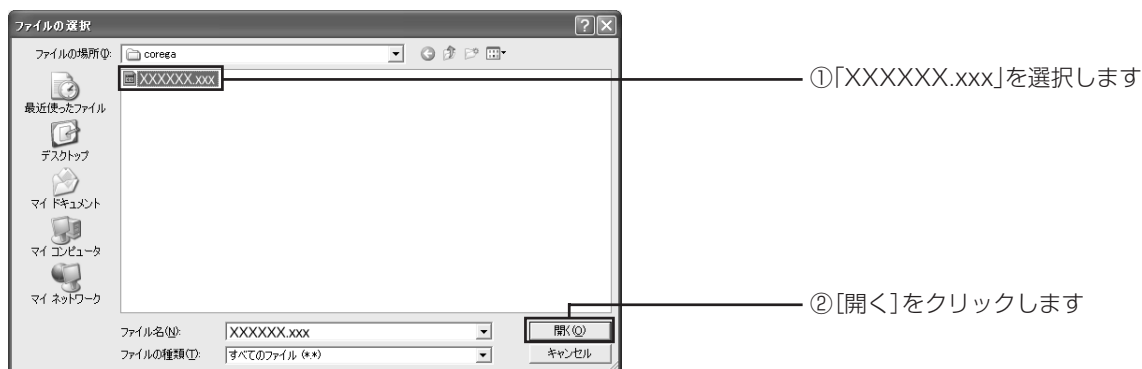
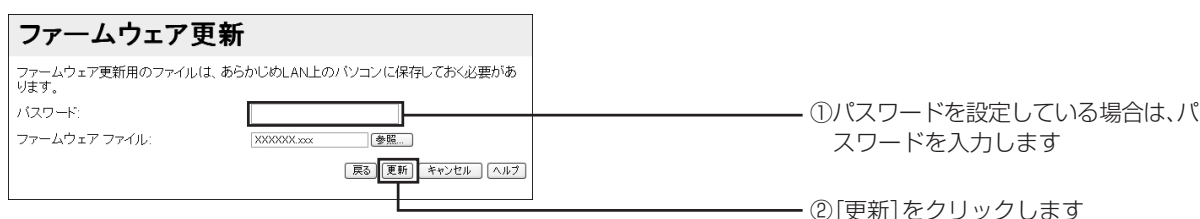
- ファームウェアをアップデートする前に、本商品の設定内容をメモに控えておいてください。
- セキュリティソフトを使用している場合、ファームウェアをアップデートする前にセキュリティソフトを停止し、ファームウェアをアップデートしたあとに、元に戻してください。セキュリティソフトの停止方法については、お使いのセキュリティソフトの取扱説明書をご覧ください。
- ファームウェアをアップデート中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

ここでは例として「C:¥corega」という名前のフォルダに「XXXXXX.xxx」というファイルを保存した場合で説明します。

1　設定画面を起動し、［Status］をクリックします。

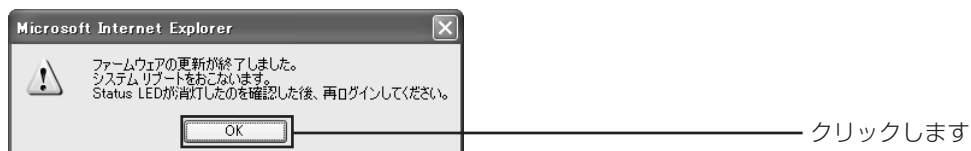
2　［ファームウェア更新］をクリックします。

3　［参照］をクリックします。

4 「C:¥corega」内の「XXXXXX.xxx」を選択し、［開く］をクリックします。

5 パスワードを設定している場合は、パスワードを入力してから［更新］をクリックします。

工場出荷時はパスワードは設定されていません。

6 次のダイアログボックスが表示されたら［OK］をクリックします。クリックすると、ファームウェアの更新処理が開始されます。

ファームウェアのアップデート中は、絶対に本商品の電源を切らないでください。また、設定画面のほかの操作をしたり、アプリケーションを起動したりしないでください。ファームウェアのアップデートに失敗すると、本商品の故障の原因になります。

7 次のダイアログボックスが表示されたら、本体前面のステータスLEDが消灯していることを確認し、［OK］をクリックします。

8 「ウィンドウは、表示中のWebページにより閉じられようとしています。このウィンドウを閉じますか？」と表示されたら［はい］をクリックします。

9 再度ウィザード画面を開き、「本商品を工場出荷時の状態（初期値）に戻す」（P.103）をご覧になり、本商品を工場出荷時の状態に戻してください。

以上でファームウェアの更新は完了です。

●本商品の設定のバックアップを取る／元に戻す

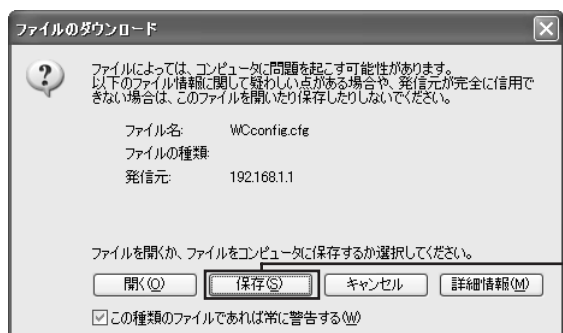
現在の設定内容をバックアップし､何らかの原因で設定内容が壊れたりした場合に､保存してあるバックアップファイルを使用して、設定を元に戻せます。

バックアップしたファイルは、同じバージョンのファームウェアでのみ使用できます。

■バックアップを取る

1　設定画面を起動して、［Status］をクリックします。

2　［設定保存］をクリックします。

3　［保存］をクリックします。

4　保存先を指定して［保存］をクリックします。

5　「ダウンロードの完了」の画面が表示されたら［閉じる］をクリックします。

以上で、本商品の設定のバックアップが完了です。

■元に戻す

1　「最新のファームウェアを入手してアップデートしたい」(P.99) の手順1～6まで設定します。手順４のファイルを選択するときに、「バックアップを取る」で保存したファイルを選択してください。

2　「設定内容の更新が成功しました!」という画面が表示されたら、［OK］をクリックします。

以上で、本商品の設定が元に戻りました。

●本商品を再起動する

本商品のシステムを再起動します。設定を変更した場合には、再起動して設定内容を反映させてください。「ファームウェアのアップデート」や「工場出荷時の状態に戻す」とは異なりますのでご注意ください。本商品を再起動するには、次の２つの方法があります。

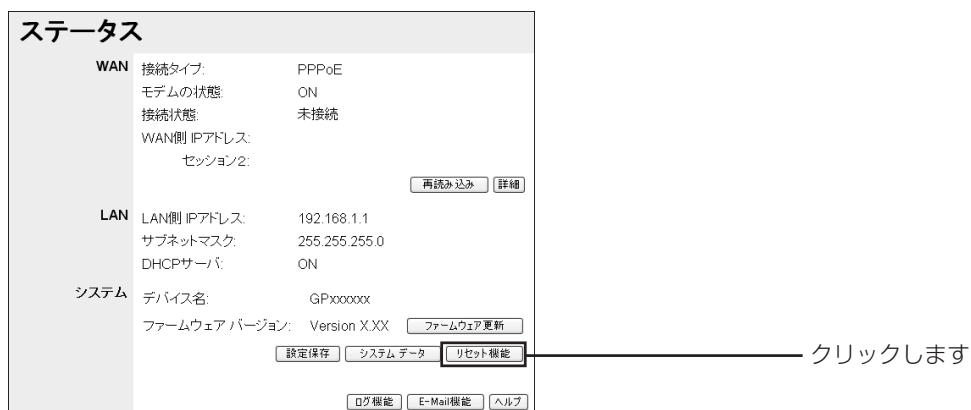
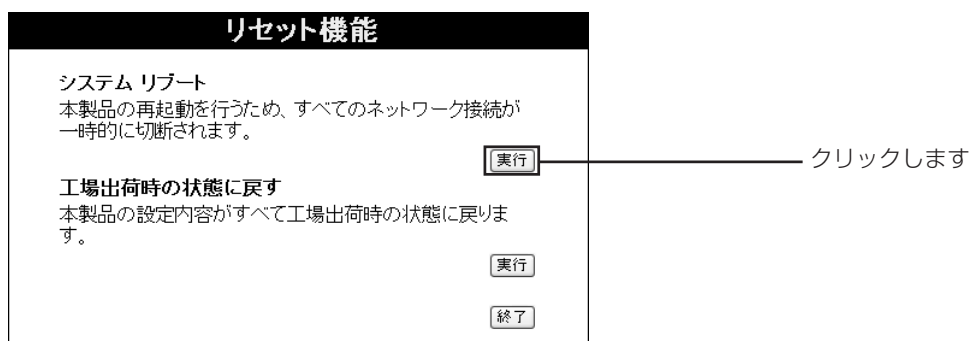
■初期化スイッチで再起動する

1　本商品の電源が入っている状態で、クリップなど硬くて先の細いものを使用し、本商品背面にある初期化スイッチを押します。

2　初期化スイッチを約3秒ほどで離します。ステータスLEDが点灯後に消灯したら、再起動は完了です。

■設定画面で再起動する

1　設定画面を表示し、[Status］をクリックします。

2　[リセット機能］をクリックします。

3　「システム リブート」の［実行］をクリックします。

4　「システム リブートをおこないます。」と表示されるので、［OK］ボタンをクリックします。

以上で再起動は完了です。

●本商品を工場出荷時の状態(初期値)に戻す

本商品を工場出荷時の状態に戻すと今まで設定した情報が初期値に戻ってしまいますので、重要な設定をしている場合は、設定内容をメモに控えたり、「本商品の設定のバックアップを取る／元に戻す」（P.101）を実行し、再設定できるようにしておいてください。本商品を工場出荷時の状態に戻すには、次の２つの方法があります。

■初期化スイッチで初期化する

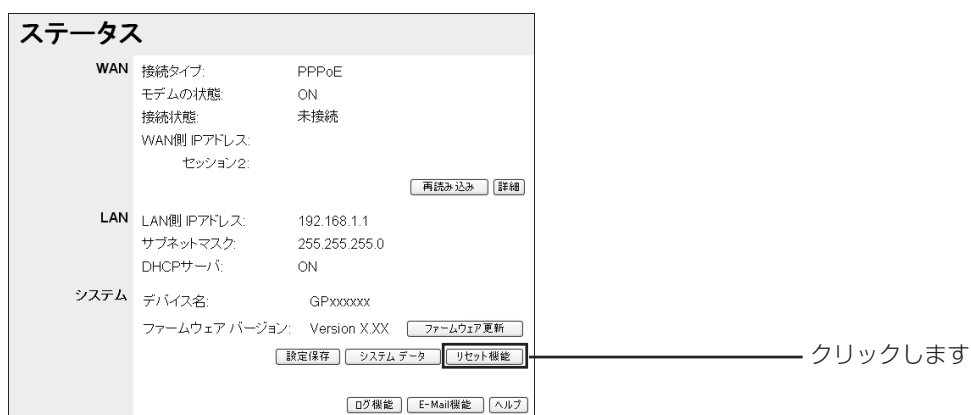
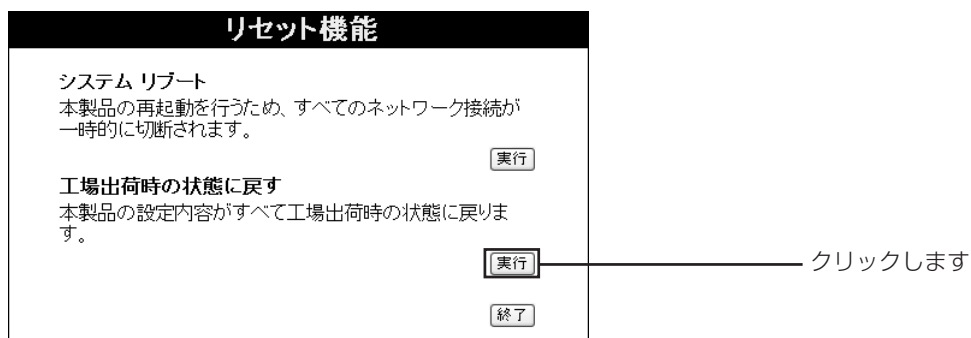
1　本商品の電源が入っていない状態で、本商品背面の初期化スイッチを押しながら、電源を入れます。初期化スイッチはクリップなど硬くて先の細いもので押してください。

2　ステータスLED（赤）が点灯しますので、そのまま初期化スイッチを10～20秒程度押し続け、ステータスLEDが一度消灯し、再び点灯したら初期化スイッチを離します。

3　LANおよびWAN LEDが点灯したら、本商品が工場出荷時の状態に戻ります。

■設定画面で初期化する

1　設定画面を起動し、［Status］をクリックします。

2　［リセット機能］をクリックします。

3　「工場出荷時の状態に戻す」の［実行］をクリックします。

4　「工場出荷時の状態に戻します。」と表示されたら［OK］をクリックします。

5　ステータスLEDが点灯し、しばらくして消灯すれば工場出荷時の状態に戻ります。

以上で本商品が工場出荷時の状態に戻りました。

MACアドレスについて

ご契約されているプロバイダやインターネットサービスによっては、インターネットに接続できる機器を事前に申請する必要があります。その場合、ADSL モデムなどに直接接続するネットワーク機器（本商品も含むパソコンなど）の MAC アドレスをプロバイダに事前申請してください。
本商品の WAN 側の MAC アドレスは本体側面のラベルに記載されています。
LAN 側の MAC アドレスは、設定画面の［Status］の［システムデータ］（P.51）で確認できます。

おことわり

・本書は、株式会社コレガが作成したもので、すべての権利を弊社が保有しています。弊社に無断で本書の一部または全部をコピーすることを禁じます。
・予告なく本書の一部または全体を修正、変更することがありますがご了承ください。
・改良のため製品の仕様を予告なく変更することがありますがご了承ください。

本商品は国内仕様となっており、外国の規格などには準拠しておりません。日本国外で使用された場合、弊社ではいかなる責任も負いかねます。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

2005 年 6 月　　初版
2008 年 5 月　第四版